中道町埋蔵文化財発掘調査報告書第３集

上野原遺跡

UENOHARA　SITE

１９９７

中道町教育委員会

『上野原遺跡』発刊にあたって

中道町は昔甲斐と駿河を結ぶ中道往還が甲府盆地に入る盆地の南側に位置し、曽根丘陵が起伏する風光明媚な田園地帯に古代よりの遺跡が数多く点在し、東日本最大級の前方後円墳の銚子塚古墳をはじめ丸山塚古墳、大丸山古墳、天神山古墳、全国的に稀な大小120基の方形周溝墓群、又甲府盆地最古の立石遺跡や大集落である上野原遺跡など数多くの古代の遺跡が存在し、古墳群と共に古代文化の中心地でありました。近年交通網の発達に伴い、中央高速道の甲府南インターチェンジを中心とした甲府盆地の幹線道路の交差地点となり、町では21世紀に向けての施策として町内米倉山一帯を甲府地域テクノポリス構想の中の学術研究機関の設置予定地として現在実現に向けて整備が進められております。このような状況の中で、現在町の高台地域を中心に宅地分譲の要望が多く、今回の調査地もその中の一つであります。

この度、発掘調査から報告書刊行まで文化財保護に協力された㈲久中商事代表の小林康展氏、又、農繁期の忙しい中を協力して頂いた数多くの作業員の方々に感謝とお礼を申し上げ、本報告書が今後の文化財の保護活用に貢献することを祈って序文といたします。

1997年3月

中道町教育委員会
教育長　丹澤光一

例　言

1．本報告書は、有限会社久中商事（代表取締役　小林康展氏　甲府市相生１丁目１の11）の建売分譲事業に供なって発掘調査された山梨県東八代郡中道町右左口字立石823番地の１（外９筆）における埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．上記開発事業区域は、周知の埋蔵文化財包蔵地「上野原遺跡」の範囲内にあり、有限会社久中商事から中道町教育委員会へ調査委託申請があり、両者協議により、中道町教育委員会が発掘調査を実施した。

3．本書における出土品および記録図面、写真は中道町教育委員会が保管している。

4．写真の撮影は、当調査担当中道町教育委員会文化財担当林部が行った。

5．本書の編集、執筆は、林部・佐野香織が行った。

6．発掘調査から本書作成にいたるまでつぎの方々からご指導いただいた。記して謝意を表する次第である。（敬称略・順不同）

出月洋文・中山誠二（山梨県教育委員会学術文化課）・田代　孝・小野正文・長沢宏昌・高野玄明（山梨県埋蔵文化財センター）・小渕忠秋（石和町教育委員会）・望月和幸（御坂町教育委員会）・伊藤修二（八代町教育委員会）・野崎　進（境川村教育委員会）・岡野秀典（豊富村教育委員会）・数野雅彦・志村憲一・富永小枝（甲府市教育委員会）

7．本書作成のための整理作業は、1996年６月14日から1997年３月28日まで行われた。

8．上記整理作業に際し、つぎの方々からの協力を得た。（敬称略、五十音順）

池谷みづほ・佐野香織・山崎聖子（中道町）・宮川菊江（境川村）・柄澤真路・本道歌子・本道政清（甲府市）・北村春美（三珠町）

9．出土遺物の一部（完形土器２点）の実測・トレースを株式会社フジテクノ（代表取締役　森谷　忠・東京都武蔵野市中町１－24－16）に依頼した。

目　次

序文『上野原遺跡』発刊にあたって
例　言
第Ⅰ章　調　査　状　況 …… 1
　第1節　調査に至る経過ならびに調査期間 …… 1
　第2節　調　査　組　織 …… 1
第Ⅱ章　遺構の位置と周辺の環境 …… 4
第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 7
　第1節　調　査　方　法 …… 7
　第2節　遺　　構 …… 7
　　1．概　要 …… 7
　　2．住居址 …… 7
　　3．土　坑 …… 9
　　4．溝状遺構 …… 10
　　5．不明遺構 …… 10
　第3節　出　土　遺　物 …… 44
　　1．出土土器 …… 44
　　2．出土石器 …… 51
第Ⅳ章　まとめ …… 62
引用・参考文献
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡位置図（１）……2
第２図　遺跡位置図（２）・調査地集成図…3
第３図　周辺遺跡位置図……4
第４図　遺構配置図（試掘調査区域）……5
第５図　遺構配置図（全面調査区域）……6
第６図　第１号住居址……11
第７図　第２号住居址……12
第８図　第３号住居址……13
第９図　第４号・第５号住居址……14
第10図　第６号住居址……15
第11図　第７号住居址……16
第12図　第８号住居址・第６号土坑……17
第13図　第９号住居址……18
第14図　第１号土坑……19
第15図　第２号土坑……19
第16図　第３号土坑・第４号溝状遺構……20
第17図　第４号土坑……20
第18図　第５号土坑……20
第19図　第１号溝状遺構……21
第20図　第２号・第３号溝状遺構……22
第21図　第５号溝状遺構……23・24
第22図　第６号・第７号溝状遺構(No.1)…25・26
第23図　第６号・第７号溝状遺構(No.2)…27・28
第24図　第１号不明遺構……29
第25図　第２号不明遺構……30
第26図　第３号不明遺構……31
第27図　第４号不明遺構……32
第28図　第５号不明遺構……33
第29図　出土遺物（No.１）……34
第30図　出土遺物（No.２）……35
第31図　出土遺物（No.３）……36
第32図　出土遺物（No.４）……37
第33図　出土遺物（No.５）……38
第34図　出土遺物（No.６）……39
第35図　出土遺物（No.７）……40
第36図　出土遺物（No.８）……41
第37図　出土遺物（No.９）……42
第38図　出土遺物（No.10）……43
第39図　出土石器（No.１）……48
第40図　出土石器（No.２）……49
第41図　出土石器（No.３）……50
第42図　1984年調査時縄文中期集落の推定範囲…62

図版目次

図版１　第３号トレンチ完掘状況
図版２　第１号住居址遺物出土状況
図版３　第１号住居址
図版４　第２号住居址
図版５　第３号住居址
図版６　第４号・第５号住居址
図版７　第６号住居址内埋甕検出状況
図版８　第６号住居址内埋甕取上状況
図版９　第６号住居址遺物出土状況
図版10　第６号住居址
図版11　第７号住居址
図版12　第８号住居址・第６号土坑
図版13　第９号住居址
図版14　第１号土坑
図版15　第２号土坑
図版16　第３号土坑・第４号溝状遺構
図版17　第４号土坑
図版18　第５号土坑
図版19　第１号トレンチ内第２号溝状遺構
図版20　第４号・第５号・第６号溝状遺構
図版21　第１号不明遺構
図版22　第８号住居址付近作業風景
図版23　第１号不明遺構作業風景
図版24　調査区全景
図版25　第１号住居址出土土器（No.1）
図版26　第１号住居址出土土器（No.2）
図版27　第６号住居址出土底部穿孔土器(2個体)
図版28　第１号住居址出土土偶
図版29　第１号住居址出土土製円盤
図版30　第１号住居址出土ミニチュア土器
図版31　第１号住居址出土把手
図版32　第１号住居址出土土器（No.3）
図版33　第２号住居址出土土器
図版34　第３号住居址出土土器
図版35　第６号住居址出土土器
図版36　第７号住居址出土土器
図版37　第８号住居址出土土器
図版38　第９号住居址出土土器
図版39　第３号土坑出土土器
図版40　第１号溝状遺構出土土器
図版41　第６号溝状遺構出土土器
図版42　不明遺構出土遺物一括
図版43　グリッド出土土器
図版44　トレンチ内出土土器
図版45　表採土器
図版46　出土石器（No.1）
図版47　出土石器（No.2）

上　野　原　遺　跡

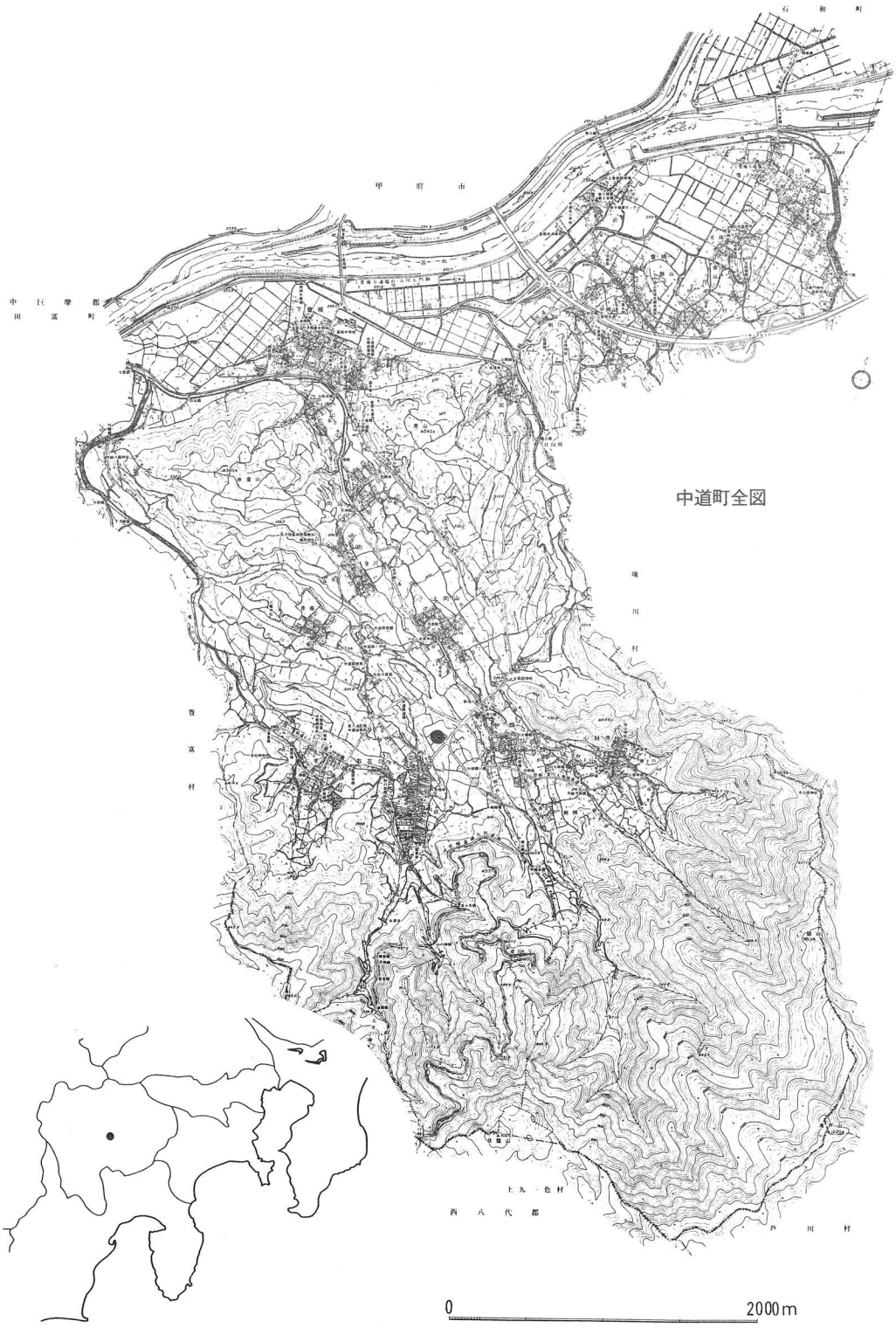
第Ⅰ章　調　査　状　況

第 1 節　　調査に至る経過ならびに調査期間

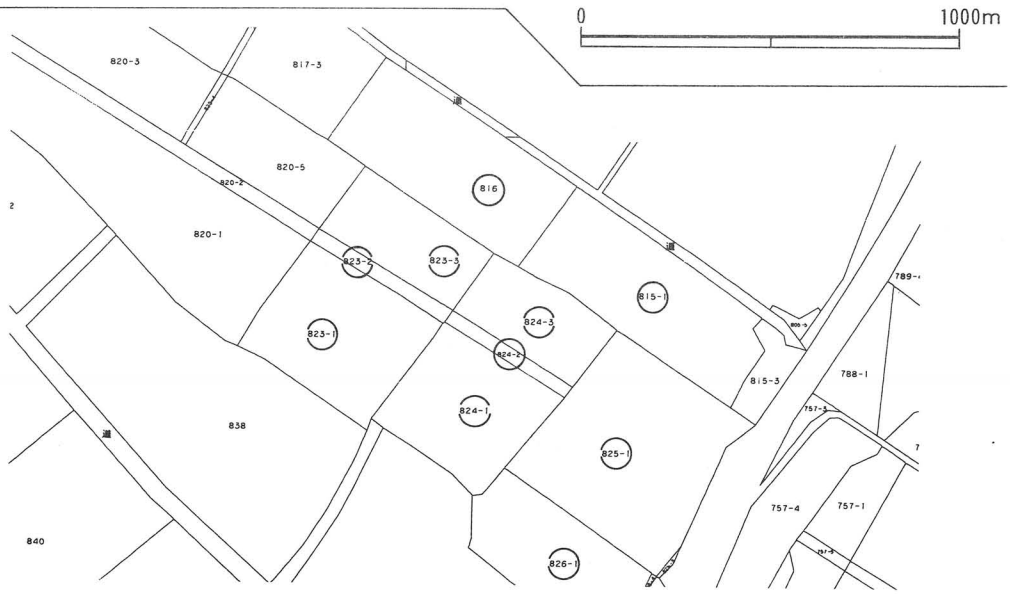
平成８年(1996)年２月５日　事業者代表小林康展氏と中道町教育委員会事務局による協議
平成８年(1996)年２月６日　文化庁に発掘通知を提出
平成８年(1996)年２月21日　事業者代表小林康展氏と中道町教育委員会教育長との間で協定を締結
平成８年(1996)年２月22日　発掘調査開始
平成８年(1996)年６月13日　発掘調査終了
調査終了後、南甲府警察署に遺物の発見通知を提出

第 2 節　　調　査　組　織

調査主体者　山梨県東八代郡中道町教育委員会
調査事務局　丹澤　光一（教育長）
池谷　陸雄（教育委員会課長）
平川　芳安（教育委員会主幹）
調査担当者　林部　　光（教育委員会文化財係主任）
調査協力者　（敬称略・五十音順）
池谷みづほ・橘田由利子・佐野香織・武田きく江・田中治江・千野富子・宮久保朝乃・山崎せいか・山崎聖子・渡辺喜乃女（中道町）
宮川菊江（境川村）
柄澤真路・河野義雄・本道歌子・本道政清（甲府市）
北村春美（三珠町）



第１図　遺跡位置図(１)



第２図　遺跡位置図(２)・調査地集成図

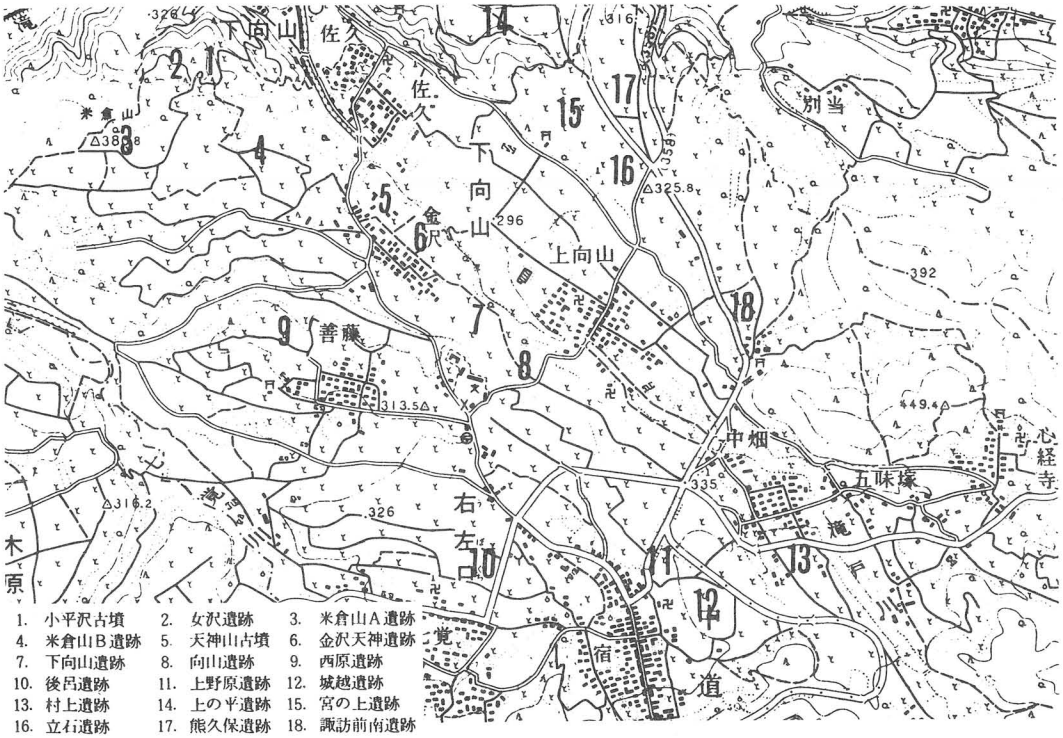
第II章　遺跡の位置と周辺の環境

上野原遺跡は、山梨県東八代郡中道町右左口地内に所在する。甲府盆地南緑に東西方向に横たわり、多くの遺跡を包蔵する「曽根丘陵」において周知の埋蔵文化財包蔵地の中では標高が高い位置にある。（今回の調査地は標高346m前後）

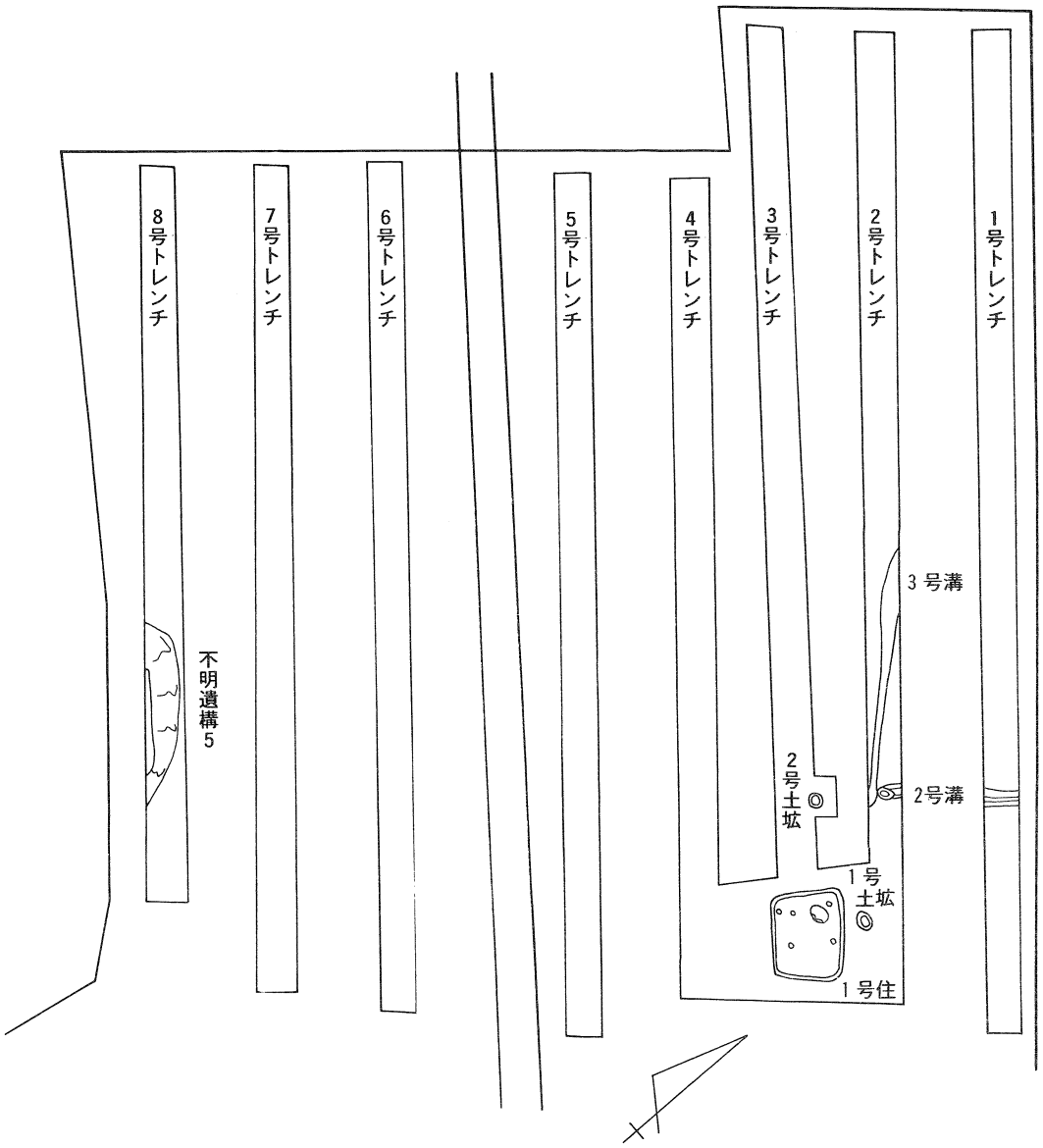
当地は、御坂山塊から東西方向になだらかに傾斜する北斜面であるが、日照条件に恵まれた台地状地形上に位置する。また、当地南側には日影山、滝戸山などが迫り、東方に西川、西方に七覚川が甲府盆地に向けて北流している。このため、動植物資源は勿論、飲料用水の確保にも適していた好条件地ではなかったかと推察される。

また、前述したとおり、当地周辺には数多くの遺跡の存在が知られているが（「第４図　周辺遺跡位置図」参照）、上野原遺跡周辺だけでも城越遺跡（縄文、古墳時代）・村上遺跡（縄文、平安時代）・後呂遺跡（縄文、弥生時代）など、縄文時代を中心とした集落跡が認められる。

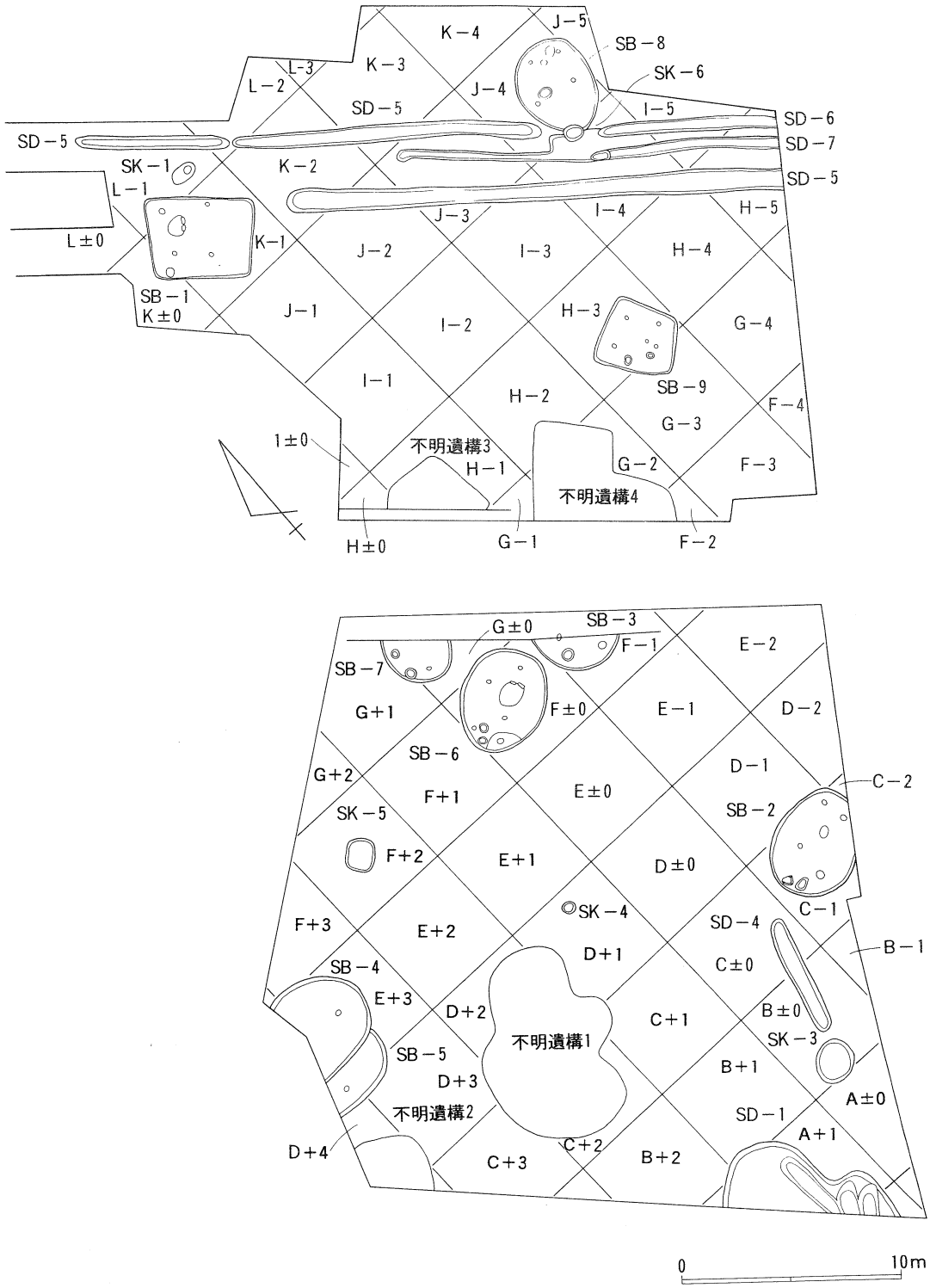
更に、1970年甲府精進湖線有料道路の新設計画が山梨県企業局から発表され、この路線が上野原遺跡・城越遺跡の中心地を走ることが確認され、翌年山梨県と中道町とで協議がなされ、「中道町右左口遺跡発掘調査団」により工事着手前の発掘調査が行われた経過がある。調査の結果、縄文時代前期末から中期にかけての住居址22軒・配石遺構・土坑などの遺構の他、数多くの遺物が検出されている。今回の調査は、この地点から30m程南側に位置しており、上野原遺跡の様相を再認識し、規模・範囲を把握する上でも重要な意味を持つ。



第３図　周辺遺跡位置図



第4図　遺構配置図(試掘調査区域)



第５図　遺構配置図(全面調査区域)

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　調査方法

調査前に行った表面採集作業の状況、ならびに1984年度に山梨県教育委員会が農林水産省関東農政局の委託と文化庁の国庫補助金を受けて実施した上野原遺跡の発掘調査結果から判断し、全面を試掘調査から開始した。８本のトレンチを設定したところ、816番地、823番地１・２・３、824番地１・２・３では縄文時代中期の遺物が数点検出されたものの、遺構は確認されなかったため、そのまま調査は終了。（第４図　遺構配置図参照）

815番地１、825番地１、826番地１では縄文時代中期の住居址等が認められたため全面調査に移行。調査は重機により表土を削除し、一辺５ｍのグリッド方式により進められた。

グリッドは、全面調査対象地の南端を基点とし、南北の軸をアルファベット（Ａ・Ｂ・Ｃ…）、東西の軸を算用数字（１・２・３…）を用して表記した。

第２節以下では上記調査により認められた遺構・遺物について詳述する。

第２節　遺　　構

１．概　　要

開発面積4,006㎡を対象に調査した結果、住居址９、土坑６、溝状遺構７が検出された。

また、明確な掘り込みは認められたものの、時期、用途等が不明な遺構（整理便宜上「不明遺構」とした。）が５ヶ所で確認された。

以下、各遺構について説明する。

２．住　居　址

第１号住居址（第６図）

隅丸方形プランを呈し、長径510㎝、短径320㎝、壁高６～30㎝を測る。西壁際に埋甕を出土させた土坑を有す。（長軸50㎝、短軸30㎝）直径20～40㎝、深さ10～66㎝を測る円形ピットが４ヶ所で確認された。炉址は北側に扁して検出、偏平な石材を２個有する。床面は平坦でよくしまっている。全体の残存状態は良好である。

第２号住居址（第７図）

東の位置部が調査区外にのびるが不整楕円形プランを呈し、長径510㎝、短径380㎝、壁高10～

50㎝の規模であったと推測される。中央から若干東の位置に長軸60㎝、短軸40㎝、深さ15㎝前後の炉址を有する。石材は認められない。その他の施設として、西壁際に長軸60㎝、短軸40㎝、深さ22㎝前後を測る土坑、ならびに長径25㎝前後、深さ26～50㎝のピットが4ヶ所で認められている。床面は平坦でよく堅められている。全体の残存状態は比較的良好である。

第3号住居址（第8図）

北半分が撹乱により全体のプランは不明ではあるが楕円形プランを呈し、長径410㎝、短径370㎝、壁高6～12㎝の規模であったと推測される。確認されたピットは2ヶ所で直径34～40㎝、深さ12～66㎝を測る。おそらく計4本のピットであったと思われる。南壁際に長軸60㎝、短軸50㎝、深さ15㎝前後の土坑を伴う。炉址は検出されなかったが、住居址中央に若干の焼土が認められることから、若干北よりに炉址が存在していたことが推定される。床面は平坦であるが、残存状態はきわめて悪い。

第4号住居址（第9図）

第5号住居址と重複する。重複と区域の限定から断定こそできないが、不整楕円形プランを呈し、長径500㎝、短径410㎝、壁高6～36㎝の規模であったと推測される。床面の撹乱が著しく不明瞭ながらピット1ヶ所のみ施設として検出。長径22㎝前後、深さ25㎝前後を測る。

第5号住居址（第9図）

第4号住居址同様著しい撹乱を受けている。住居址の推定プランは不整楕円形、推定規模は長径530㎝、短径410㎝、壁高4～12㎝であったと思われる。唯一確認されたピットは直径24～30㎝、深さ17㎝前後を測る。床面のしまりは悪い。

第6号住居址（第10図）

今回の調査で確認された9軒の住居址の中で最も残存状態の良好な遺構である。

不整楕円形プランを呈し、長径480㎝、短径380㎝、壁高4～28㎝を測る。中央やや東よりに長形の石材を2個有する炉址が認められた。長軸130㎝、短軸90㎝、深さ40～64㎝を測り、内部からは多くの炭化物、焼土が認められた。その他の施設として、西壁際2ヶ所において埋甕を出土させた土坑が検出。壁際の土坑では正位、中央よりでは逆位である。ピットは4ヶ所で検出。直径14～30㎝、深さ16～76㎝を測る。床面は若干の起伏があり、よく踏みかためられている。周溝は認められない。

第７号住居址

北東半分が撹乱により断定はできないが、長径420㎝、短径が330㎝、壁高２～20㎝の規模を持ち、長楕円形のプランを呈する住居址であったと思われる。床面は若干の起伏がある。検出された施設として２ヶ所のピットと土坑がある。ピットは直径30㎝、14㎝、深さは76㎝、16㎝である。土坑は長軸50㎝、短軸42㎝、深さ12～24㎝である。周溝は認められない。

第８号住居址

第６号土坑と重複する。長楕円形プランを呈し、長径450㎝、短径340㎝、壁高１～24㎝を測る。ピットは４ヶ所で認められ、直径12～20㎝、深さ８～42㎝を計測する。北よりに炉址が検出。長軸60㎝、短軸40㎝、深さ８～14㎝を測る。また、住居床面中央に土坑を認める。長軸70㎝、短軸50㎝、深さ12～20㎝の規模である。床面は平坦、周溝は認められない。

第９号住居址

中央に焼土の散在が認められたものの炉址らしき遺構が確認されなかったため「住居址」とするには難があったが、焼土の存在を念頭に「住居址」としてとりあげた。当遺構は不整の隅丸方形プランを呈し、長径360㎝、短径330㎝、壁高10～25㎝を測る。ピットは５本、直径20㎝前後、深さ30㎝前後である。唯一認められた西壁よりの土坑は長軸50㎝、短軸30㎝の規模を持つ。

３、土　坑

今回の調査では６基の土坑が検出。それぞれの形態・規模は「一覧表」のとおりである。

土坑一覧表

挿図		形態		規模 ㎝			坑底	位置 (グリッド)	備考
		平面形	断面形	長軸	短軸	深さ			
第14図	第１号土坑	長楕円形	Ｖ字状	120	70	22～72	テラス有	Ｌ－１	１号住と隣接
第15図	第２号土坑	不整円形	すり鉢状	80	70	32～50	平坦	３号トレンチ	
第16図	第３号土坑	楕円形	皿状	200	160	3～24	平坦	Ａ±０ Ｂ±０	４号溝の一部？
第17図	第４号土坑	不整円形	すり鉢状	60	50	10～35	平坦	Ｄ＋１	
第18図	第５号土坑	隅丸方形	皿状	140	120	18～28	平坦	Ｆ＋２	
第12図	第６号土坑	楕円形	皿状	120	70	12～20	平坦	Ｉ－４ Ｊ－４	６号溝と重複

4、溝状遺構

挿図 (No.)		形態		規模 (m)			位置 (グリッド、トレンチ)	備考
		断面形	溝底	長さ	はば	深さ		
19	第1号溝状遺構	U字状	平坦	不明	1.8	0.5	A＋1、B＋1、B＋2	起点。南に流路をもつ。
20	第2号溝状遺構	U字状	平坦	不明	0.8～1.0	0.4～0.5	1号、2号トレンチ	
20	第3号溝状遺構	U字状	凸凹	不明	1.2	0.4	2号トレンチ	第2号溝と接合
16	第4号溝状遺構	皿状	凸凹	不明	0.4～1.1	0.25～0.5	B±0、C±0	第3号土坑に隣接
21	第5号溝状遺構	U字状	起伏	不明	0.7～1.0	0.2～0.3	H-5、I-3・4、J-2・3、K-2	第6、第7号溝に平行
22・23	第6号溝状遺構	U字状	平坦	不明	0.5～0.7	0.2～0.4	H-5、I-4・5、J-3・4、K-2・3、L-1・2	拳大の石材を認める。
22・23	第7号溝状遺構	V字状	平坦	不明	0.4～0.8	0.3～0.5	H-5、I-4・5、J-3・4	第6号、第7号溝は第6号土坑付近で接合し、再度分流

5、不明遺構

今回の調査で用途不明の遺構が5ヶ所で認められた。この項において整理便宜上「不明遺構」とし、以下略説をする。

第1号不明遺構

C＋1、C＋2、C＋3、D＋1、D＋2、D＋3区に位置。縄文時代中期後半の土器等を若干認めさせたもののこれらの遺物は時期、用途判定する資料とはなり得ない。内部は黒色土が充満。土質もサクサクしている。中、近世の遺構である可能性が高い。

第2号不明遺構

D＋4区に位置。調査区の限定から形態不明であるが、西に向かい構底が下がっており、「溝状遺構」の起点である可能性も考えられる。

第3号不明遺構

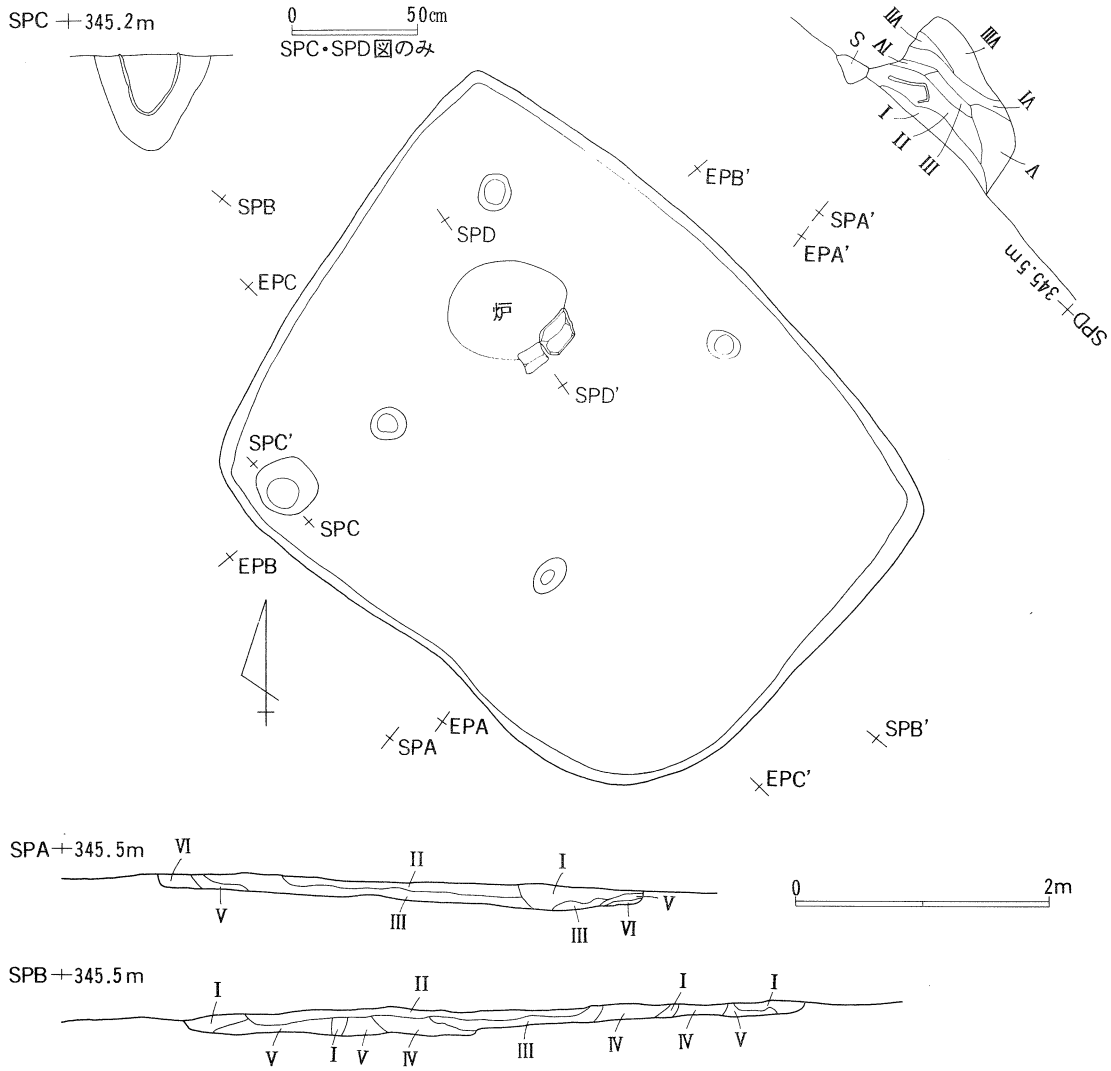
H±0、H－1区に位置。壁らしき立ち上がりがあるが、撹乱による他施認の不明瞭さから「住居址」とするには無理がある。

第4号不明遺構

F－2、G－1、G－2、H－2区に位置。住居址の重複とも推察されたが、現況からは判定できない。

第5号不明遺構

8号トレンチにて検出。第2号同様、溝状遺構の起点である可能性が高い。



ＳＰＡ・ＳＰＢ
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：黒褐色土層(土器・カーボン・焼土多量)
第Ⅲ層：暗褐色土層(φ5～30㎜ロームブロック混入)
第Ⅳ層：暗褐色土層(焼土・カーボン多量、遺物多量に伴出)
第Ⅴ層：褐色土層(ロームブロック多く含む、遺物多量に伴出)
第Ⅵ層：明褐色土層(粘性強)

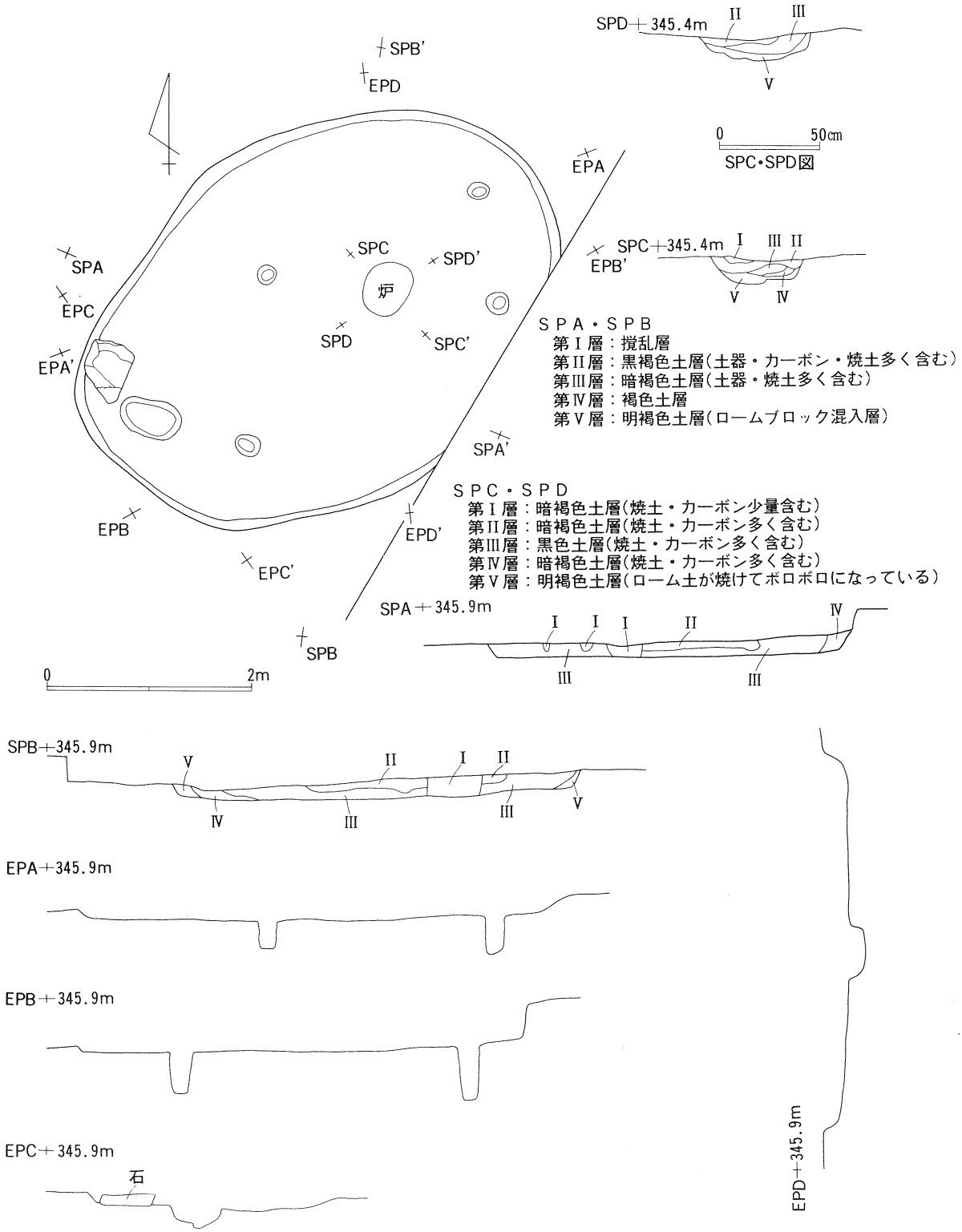
ＳＰＤ
第Ⅰ層：暗褐色土層
第Ⅱ層：黒褐色土層(焼土・カーボン多量、遺物量多い)
第Ⅲ層：褐色土層(焼土・カーボン多量、粘性あり)
第Ⅳ層：黒褐色土層(焼土・カーボン多量、ボソボソ気味)
第Ⅴ層：暗褐色土層(焼土・カーボン少量、シマリ強)
第Ⅵ層：焼土層
第Ⅶ層：明褐色土層(焼土多い、ボソボソ)
第Ⅷ層：明褐色土層

EPA＋345.5m

EPB＋345.5m

EPC ＋345.5m

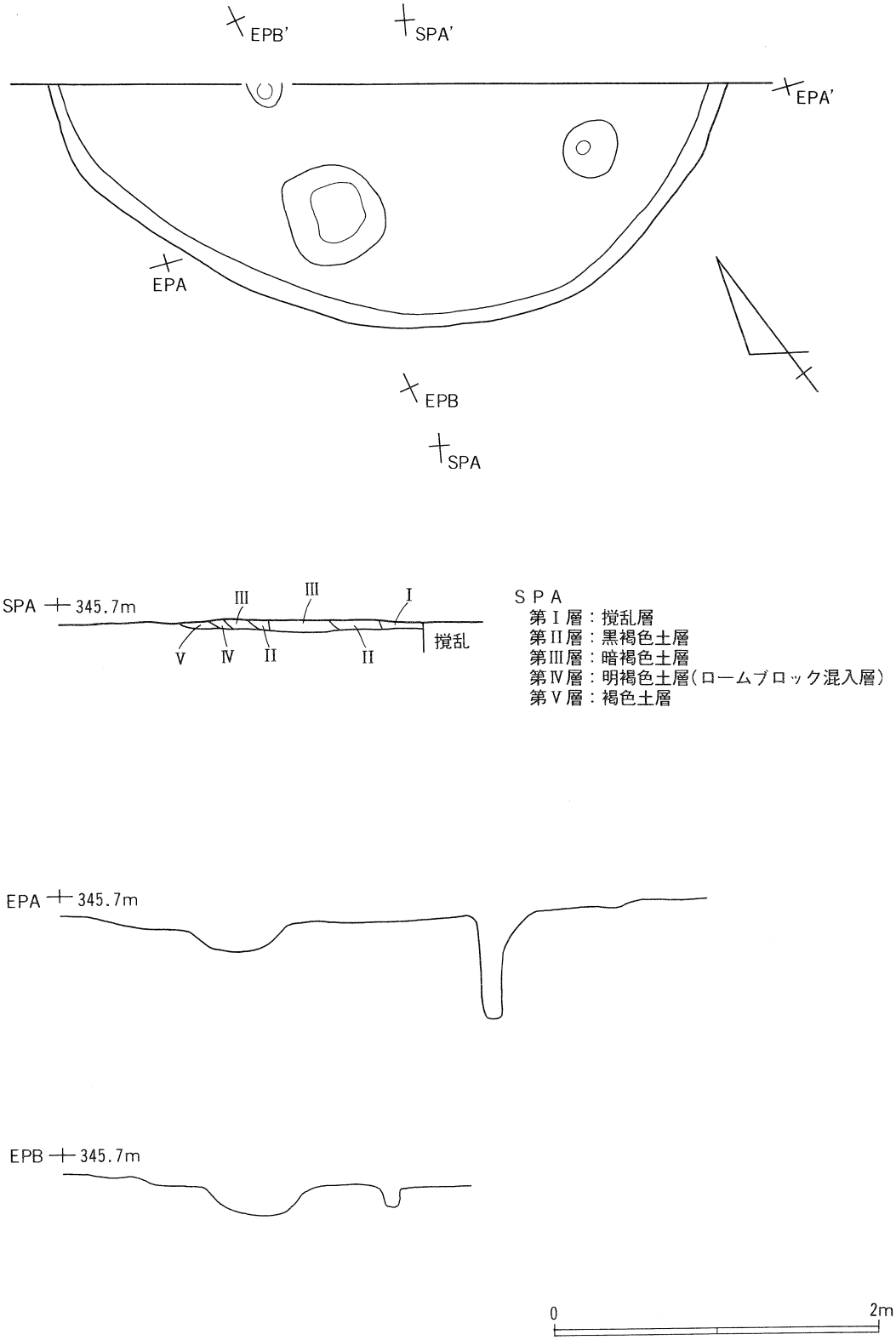
第６図　第１号住居址



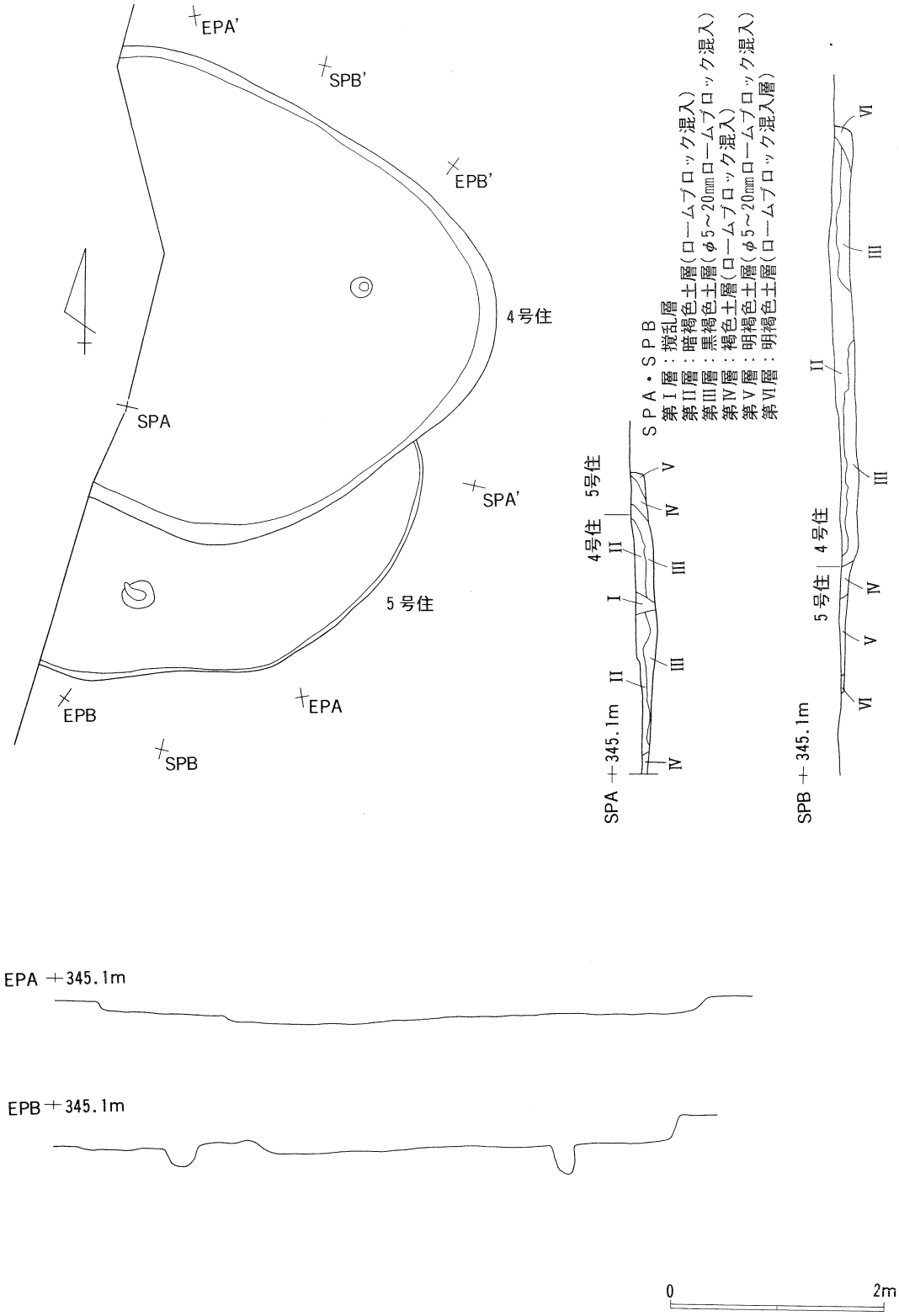
ＳＰＡ・ＳＰＢ
第Ｉ層：撹乱層
第II層：黒褐色土層（土器・カーボン・焼土多く含む）
第III層：暗褐色土層（土器・焼土多く含む）
第Ⅳ層：褐色土層
第Ｖ層：明褐色土層（ロームブロック混入層）

ＳＰＣ・ＳＰＤ
第Ｉ層：暗褐色土層（焼土・カーボン少量含む）
第II層：暗褐色土層（焼土・カーボン多く含む）
第III層：黒色土層（焼土・カーボン多く含む）
第Ⅳ層：暗褐色土層（焼土・カーボン多く含む）
第Ｖ層：明褐色土層（ローム土が焼けてボロボロになっている）

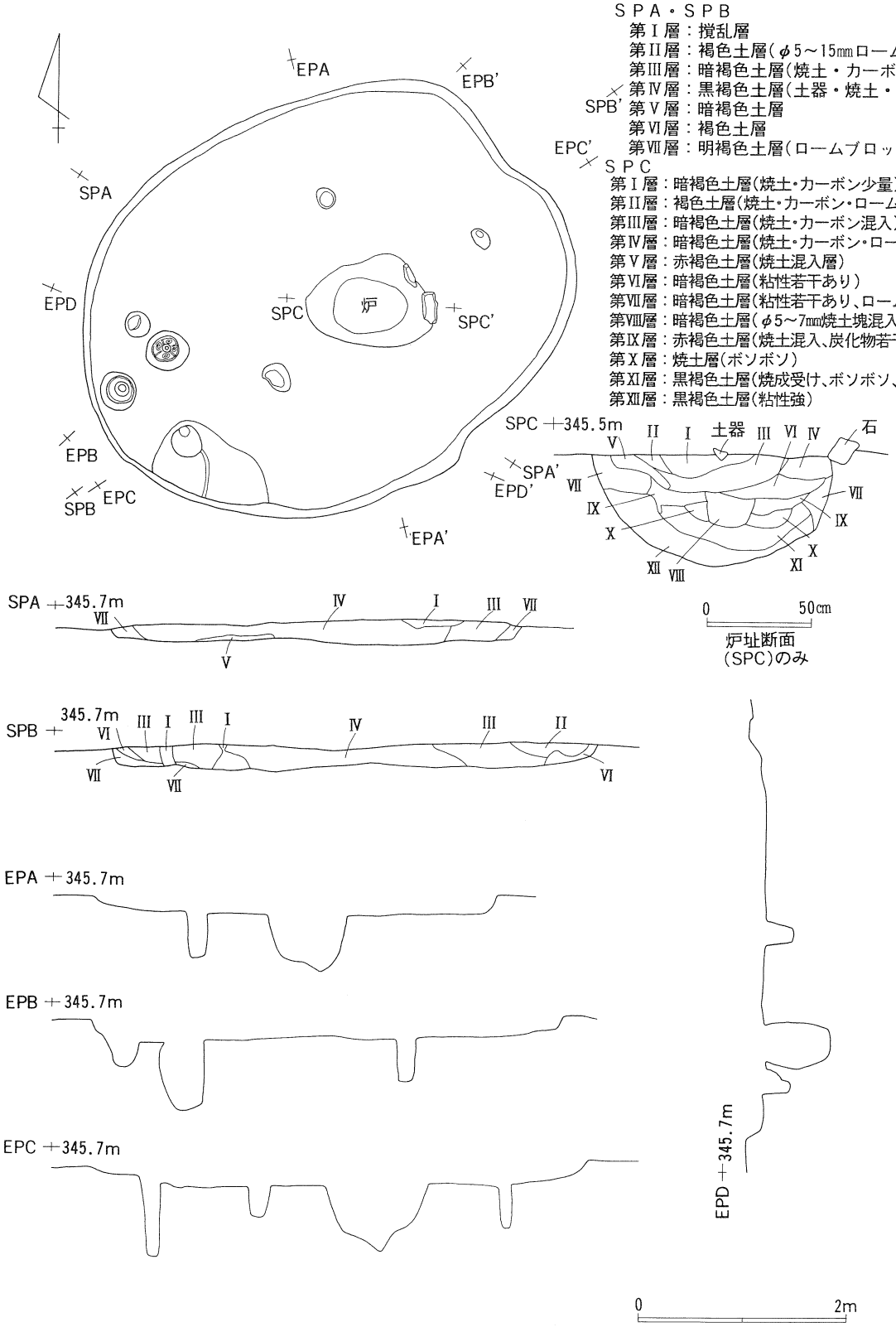
第７図　第２号住居址


EPB'
SPA'
EPA'
EPA
EPB
SPA
SPA 345.7m
III
III
I
V
IV
II
II
撹乱
SPA
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：黒褐色土層
第Ⅲ層：暗褐色土層
第Ⅳ層：明褐色土層（ロームブロック混入層）
第Ⅴ層：褐色土層
EPA 345.7m
EPB 345.7m
0
2m

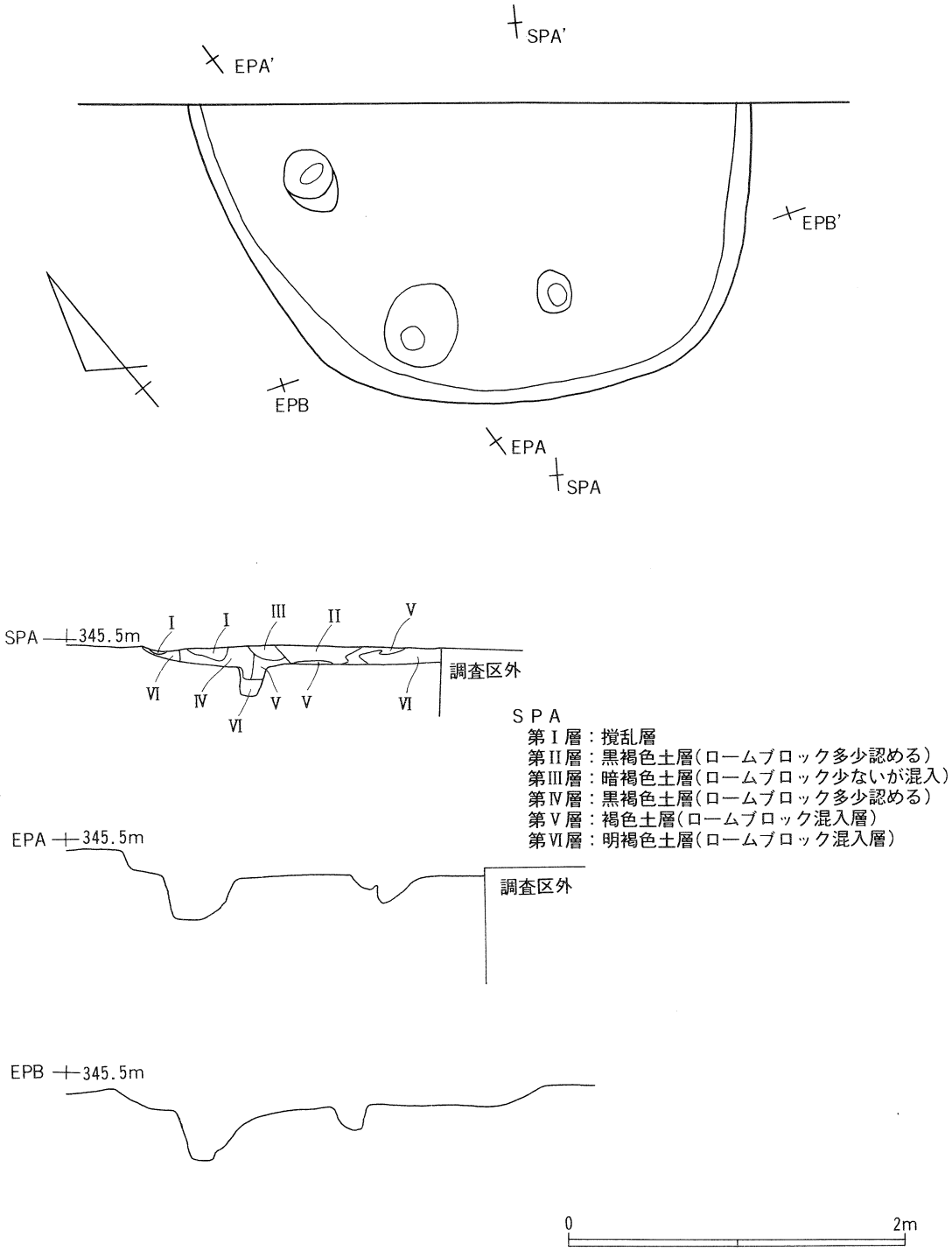
第8図　第3号住居址



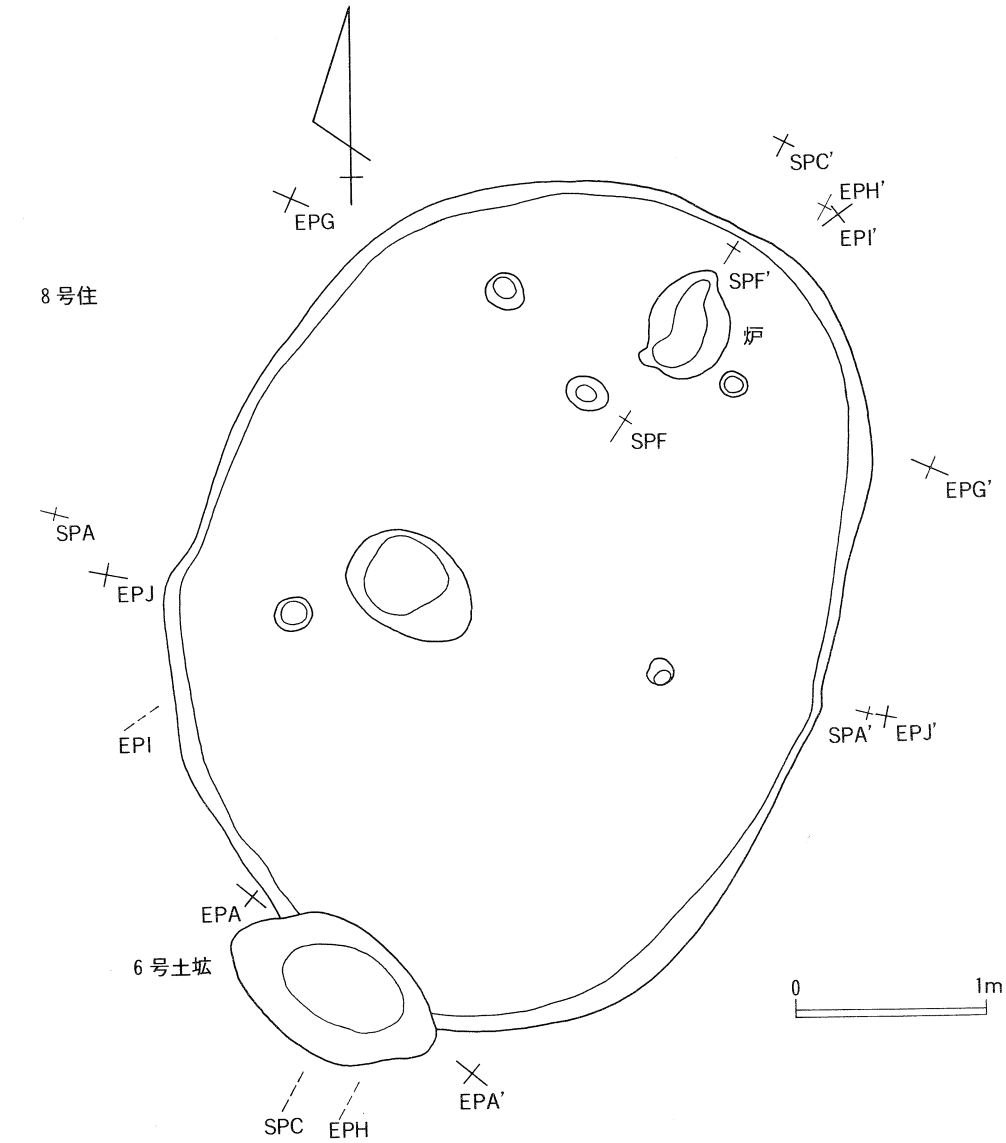
第9図　第4号・第5号住居址

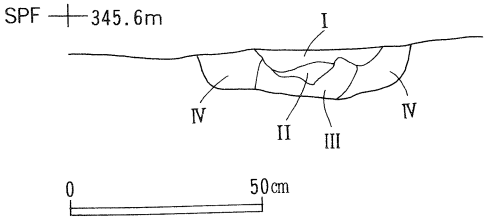

SPA・SPB
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：褐色土層(φ5～15mmロームブロック混入)
第Ⅲ層：暗褐色土層(焼土・カーボン若干)
第Ⅳ層：黒褐色土層(土器・焼土・カーボン多量)
第Ⅴ層：暗褐色土層
第Ⅵ層：褐色土層
第Ⅶ層：明褐色土層(ローム ブロック混入層)
SPC
第Ⅰ層：暗褐色土層(焼土・カーボン少量)
第Ⅱ層：褐色土層(焼土・カーボン・ロームブロック少量)
第Ⅲ層：暗褐色土層(焼土・カーボン混入)
第Ⅳ層：暗褐色土層(焼土・カーボン・ロームブロック混入)
第Ⅴ層：赤褐色土層(焼土混入層)
第Ⅵ層：暗褐色土層(粘性若干あり)
第Ⅶ層：暗褐色土層(粘性若干あり、ロームブロック混入)
第Ⅷ層：暗褐色土層(φ5～7mm焼土塊混入)
第Ⅸ層：赤褐色土層(焼土混入、炭化物若干量)
第Ⅹ層：焼土層(ボソボソ)
第Ⅺ層：黒褐色土層(焼成受け、ボソボソ、粘性あり)
第Ⅻ層：黒褐色土層(粘性強)
EPA
EPB'
SPA
EPD
SPC
炉
SPC'
EPB
SPB
EPC
EPA'
SPB'
EPC'
SPC 345.5m
土器
石
SPA'
EPD'
SPA 345.7m
SPB 345.7m
EPA 345.7m
EPB 345.7m
EPC 345.7m
EPD 345.7m
0
50cm
炉址断面
(SPC)のみ
0
2m

第10図　第６号住居址


SPA'
EPA'
EPB'
EPB
EPA
SPA
SPA 345.5m
I
I
III
II
V
VI
IV
VI
V
V
VI
調査区外
SPA
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：黒褐色土層(ロームブロック多少認める)
第Ⅲ層：暗褐色土層(ロームブロック少ないが混入)
第Ⅳ層：黒褐色土層(ロームブロック多少認める)
第Ⅴ層：褐色土層(ロームブロック混入層)
第Ⅵ層：明褐色土層(ロームブロック混入層)
EPA 345.5m
調査区外
EPB 345.5m
0
2m

第11図　第７号住居址

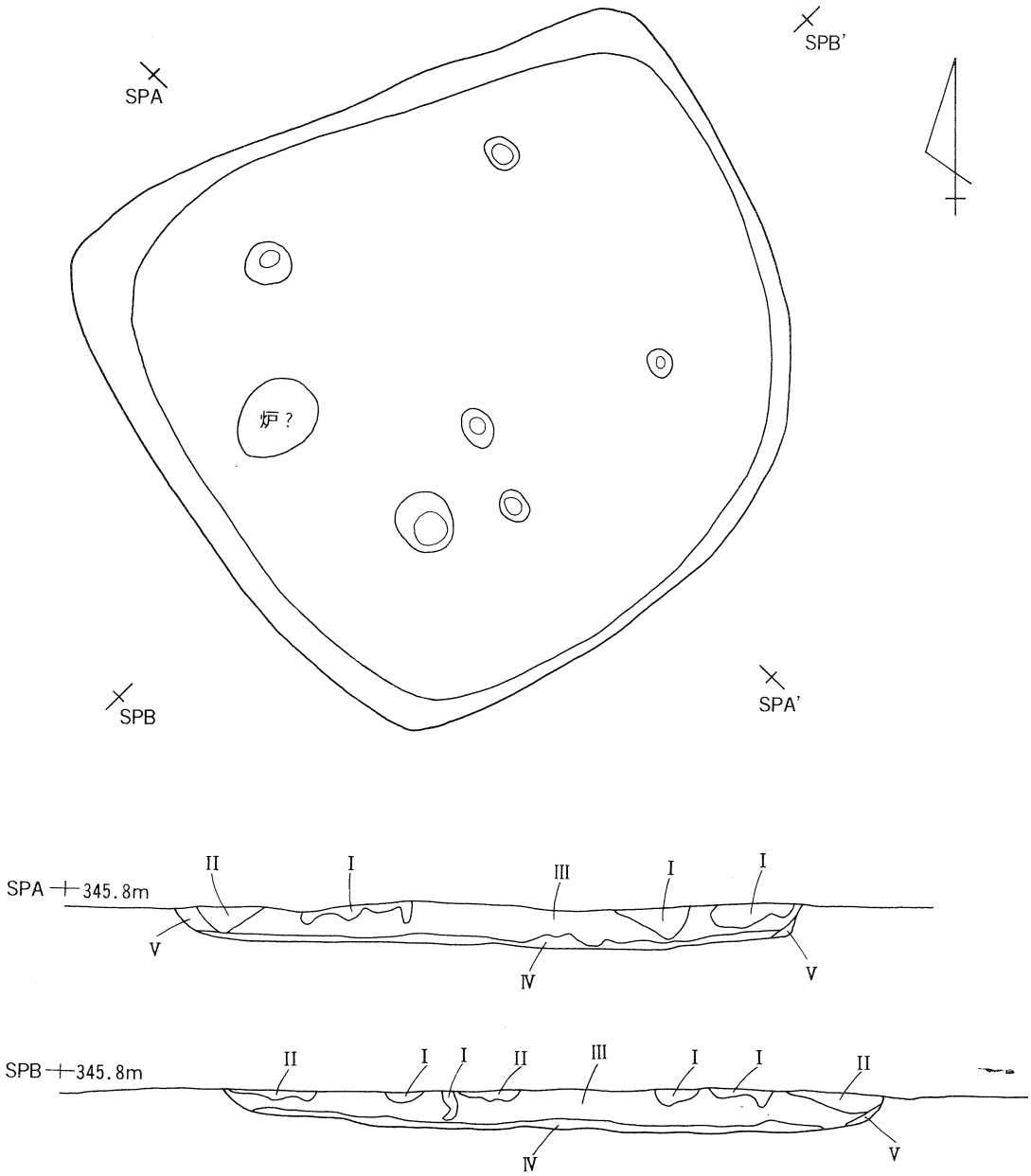




ＳＰＦ
第Ⅰ層：暗褐色土層(焼土・カーボン多量)
第Ⅱ層：褐色土層(焼土・カーボン多量)
第Ⅲ層：暗褐色土層(焼土・カーボン多量、ボロボロ)
第Ⅳ層：褐色土層(焼成若干受ける、ロームブロック多量)

(※ＥＰ・ＳＰ図の一部は
第22・23図の中にある。)

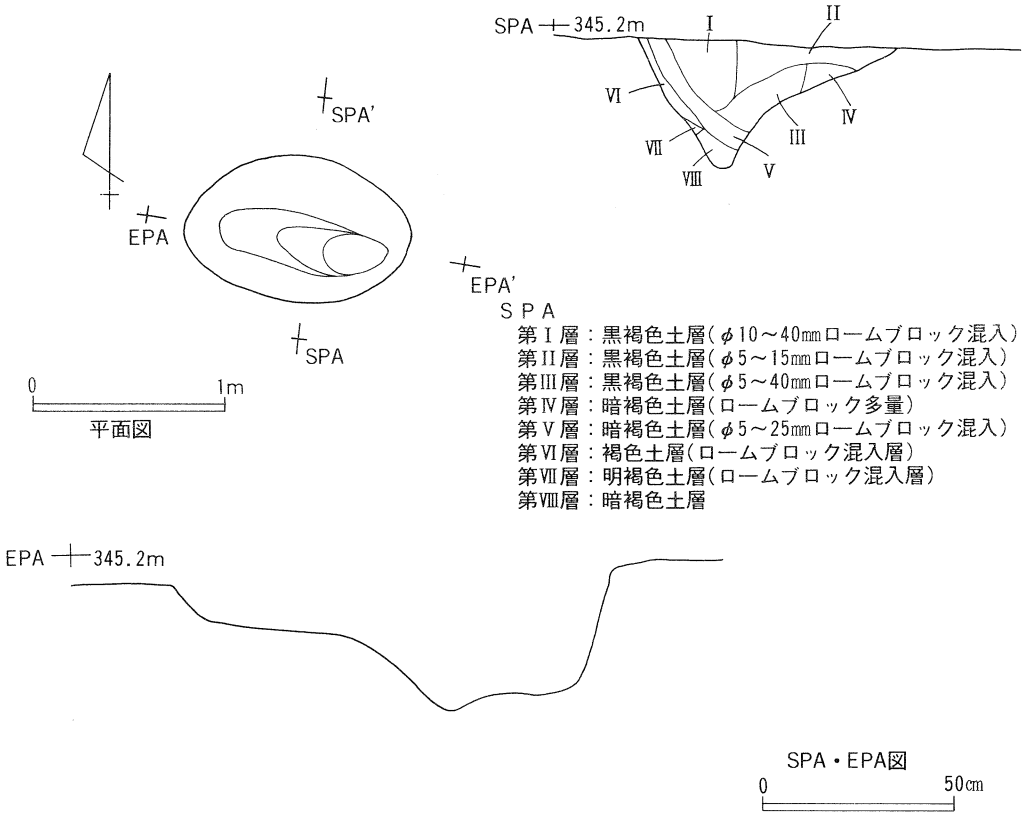
第12図　第８号住居址・第６号土坑



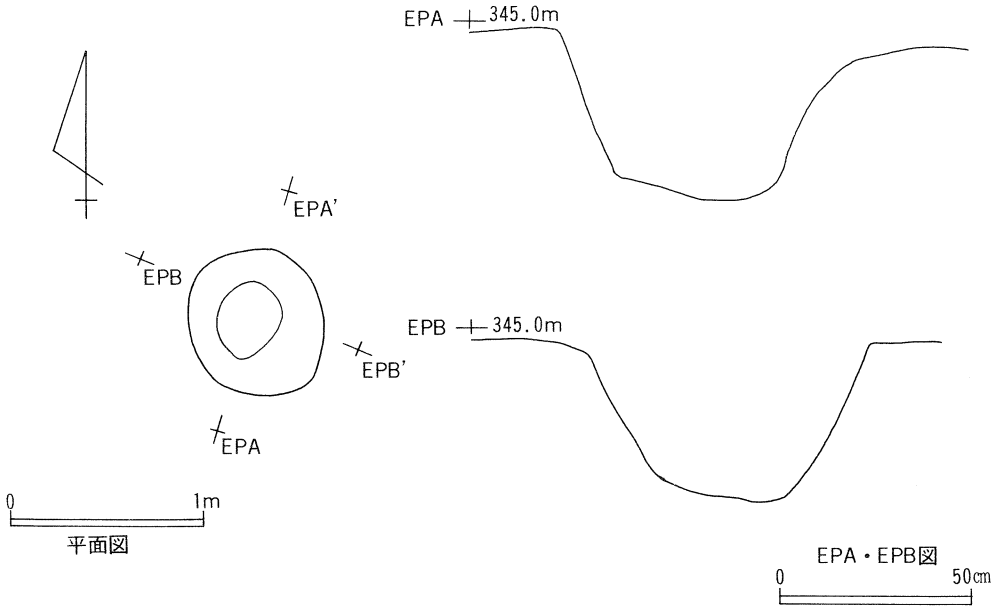
ＳＰＡ・ＳＰＢ
第Ｉ層：撹乱層
第II層：黒褐色土層
第III層：暗褐色土層(焼土・カーボン少量)
第IV層：明褐色土層(床材のトビあり)
第Ｖ層：明褐色土層(ロームブロック混入層)

0　2m

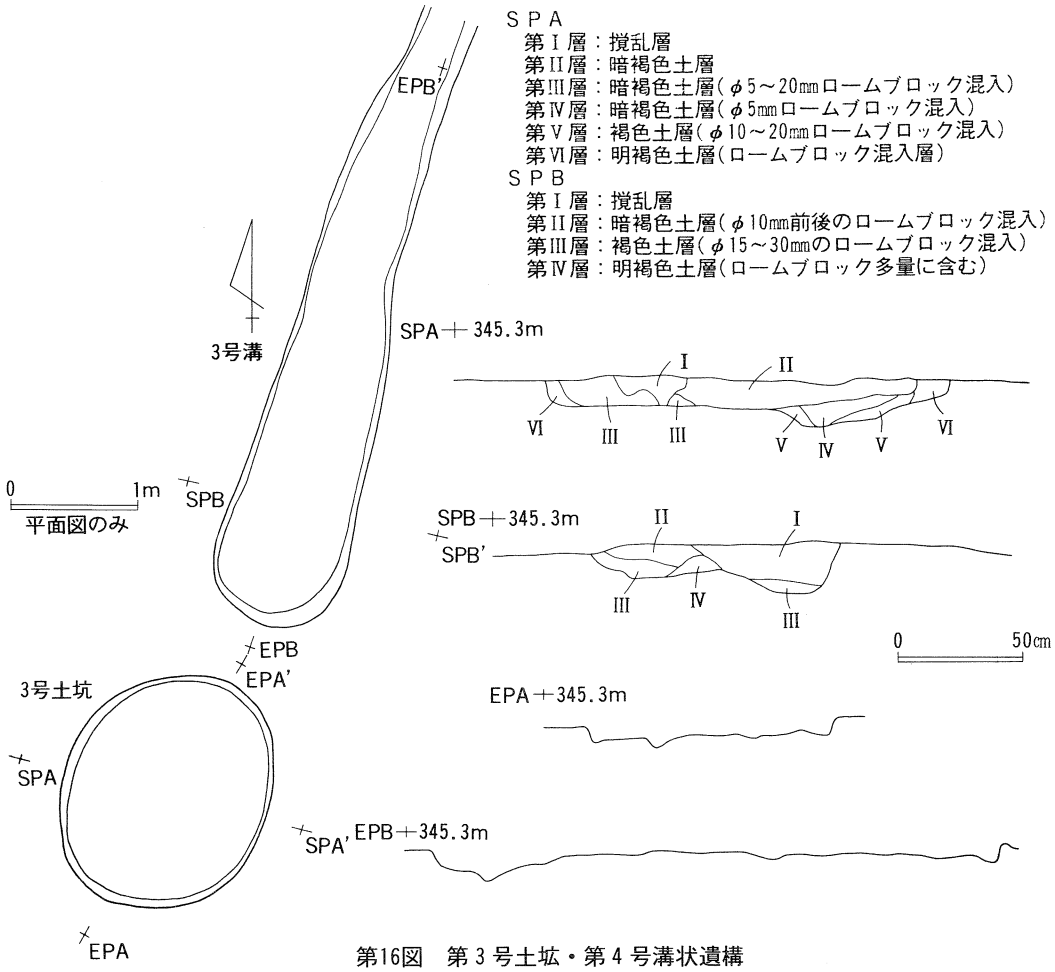
第13図　第９号住居址



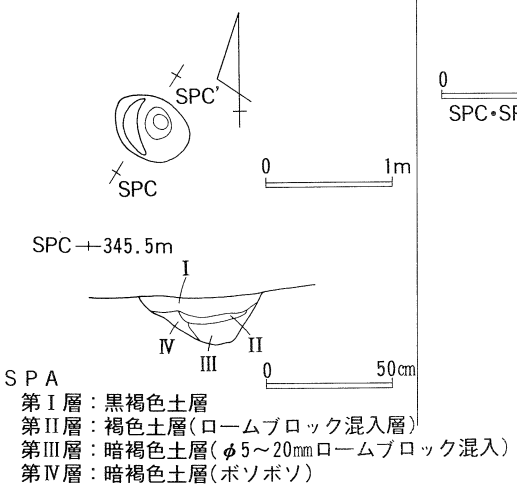
第14図　第１号土坑



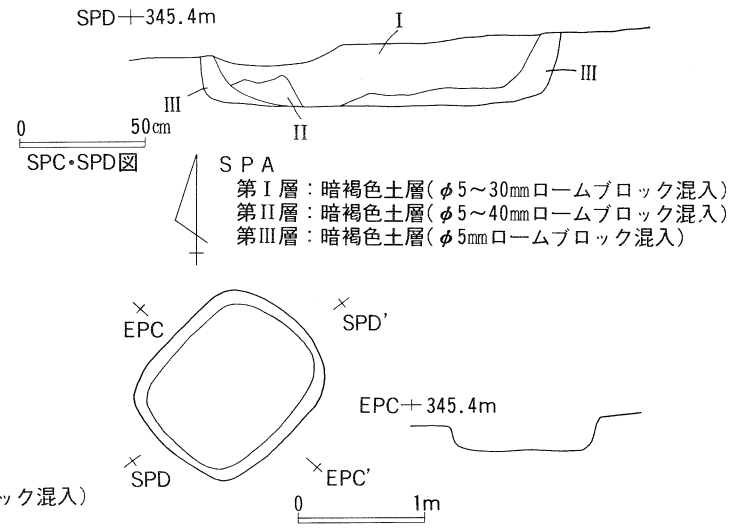
第15図　第２号土坑



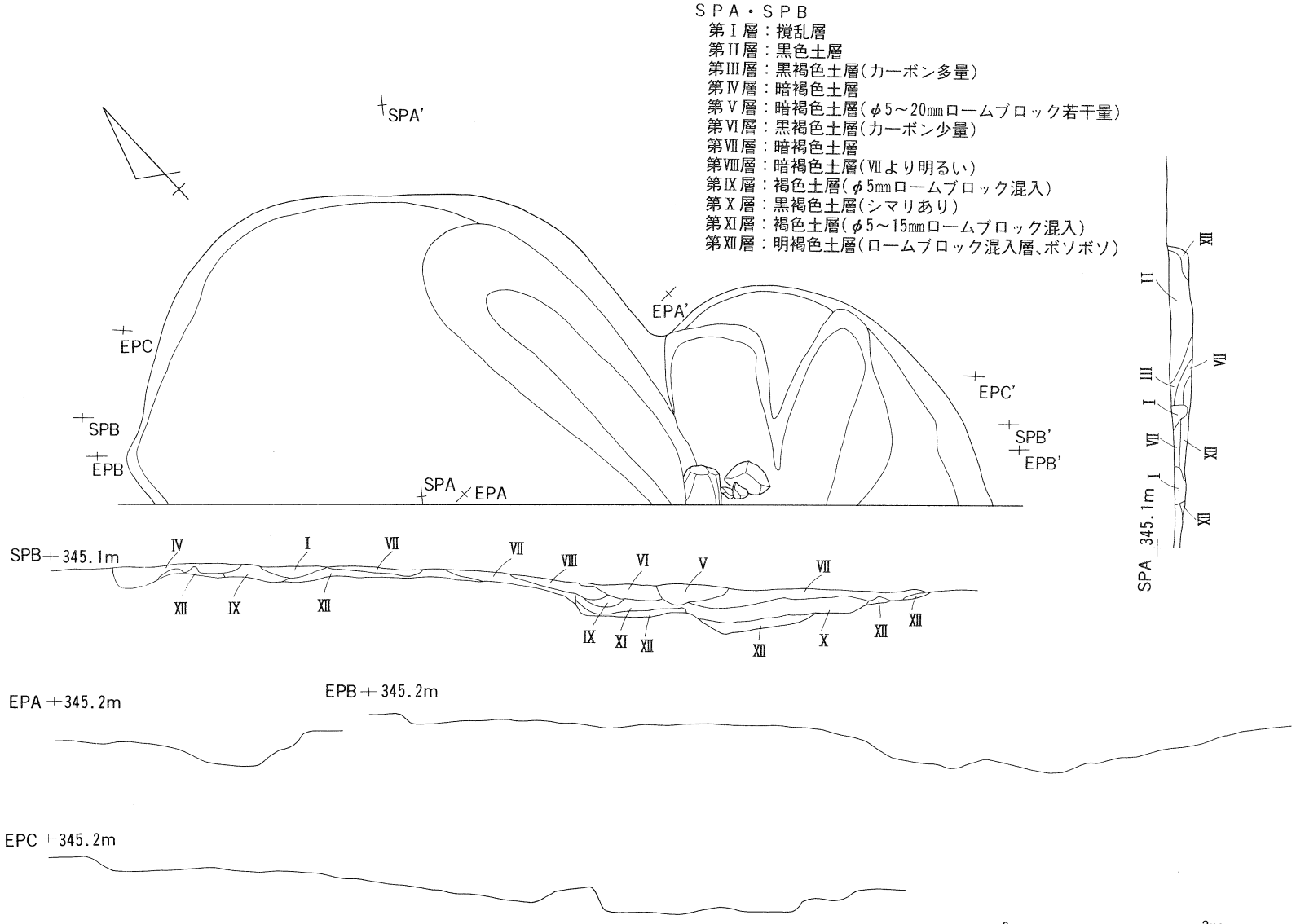
第16図　第３号土坑・第４号溝状遺構



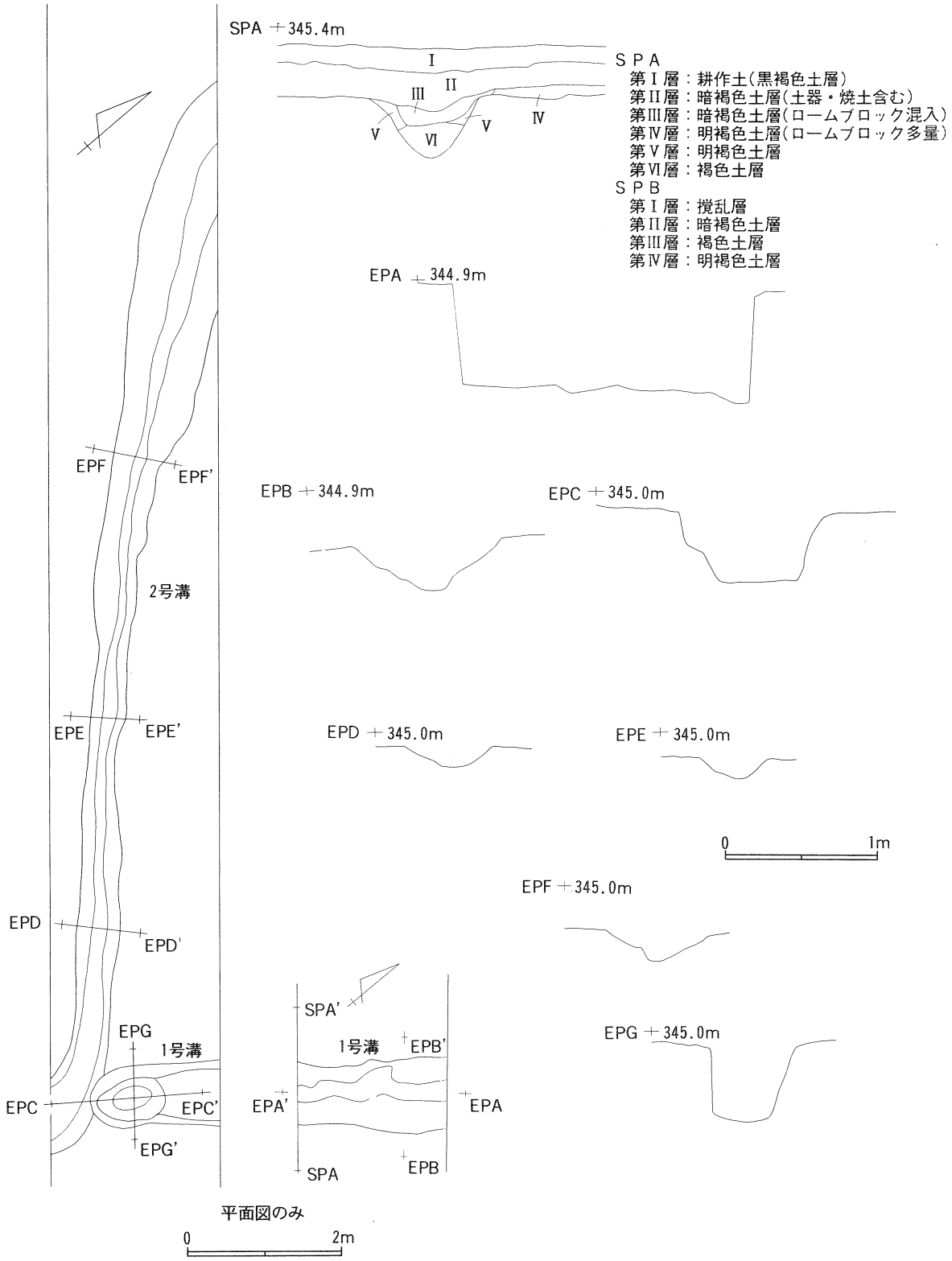
第17図　第４号土坑



第18図　第５号土坑

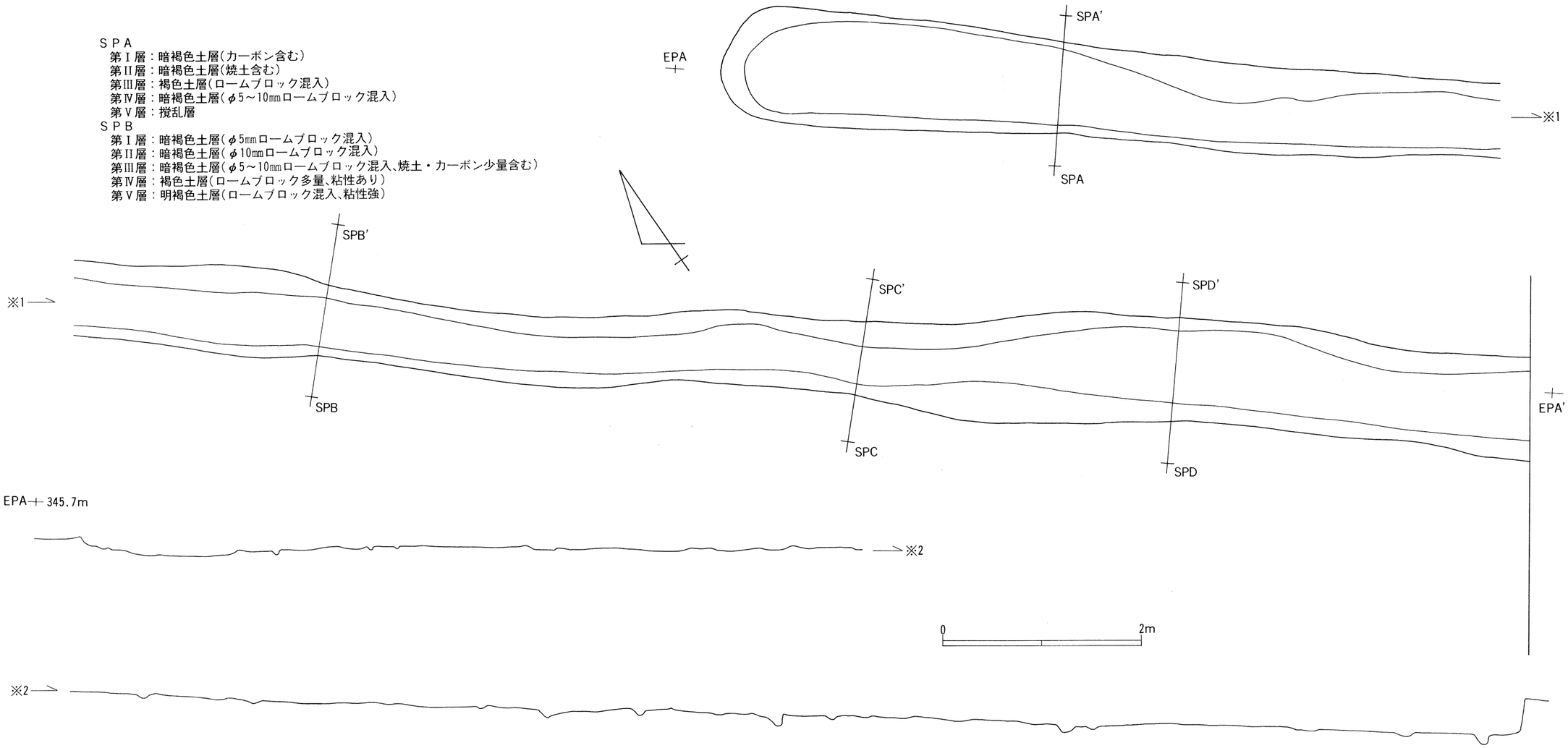


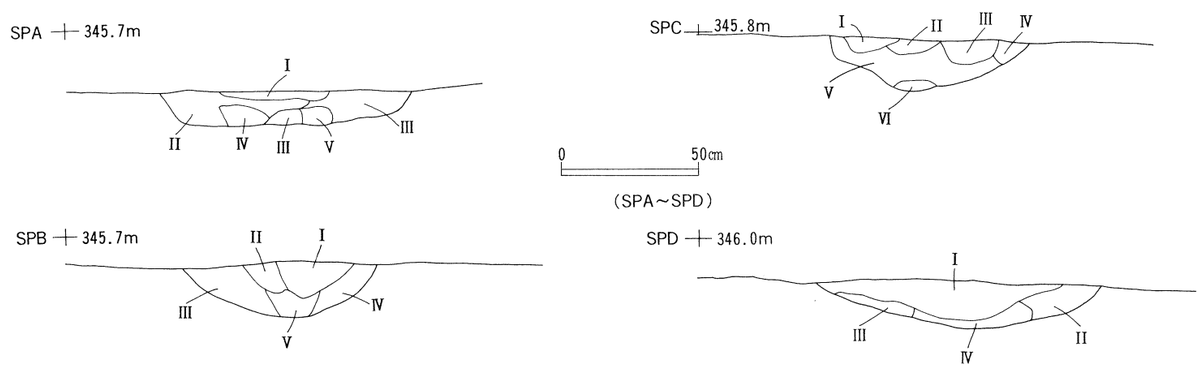
第19図　第１号溝状遺構



第20図　第２号・第３号溝状遺構

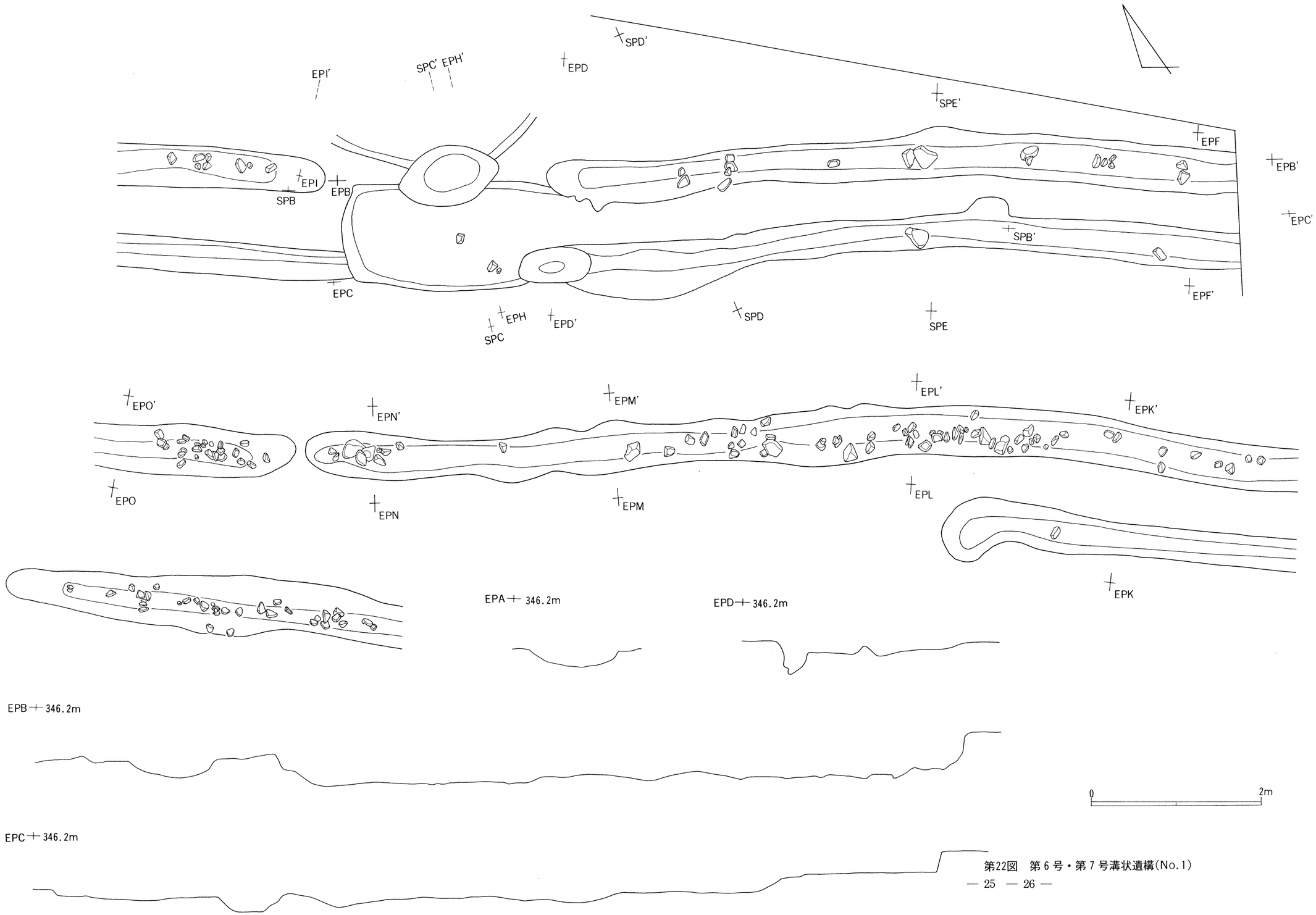
ＳＰＡ
第Ⅰ層：暗褐色土層（カーボン含む）
第Ⅱ層：暗褐色土層（焼土含む）
第Ⅲ層：褐色土層（ロームブロック混入）
第Ⅳ層：暗褐色土層（φ5～10㎜ロームブロック混入）
第Ⅴ層：撹乱層
ＳＰＢ
第Ⅰ層：暗褐色土層（φ5㎜ロームブロック混入）
第Ⅱ層：暗褐色土層（φ10㎜ロームブロック混入）
第Ⅲ層：暗褐色土層（φ5～10㎜ロームブロック混入、焼土・カーボン少量含む）
第Ⅳ層：褐色土層（ロームブロック多量、粘性あり）
第Ⅴ層：明褐色土層（ロームブロック混入、粘性強）



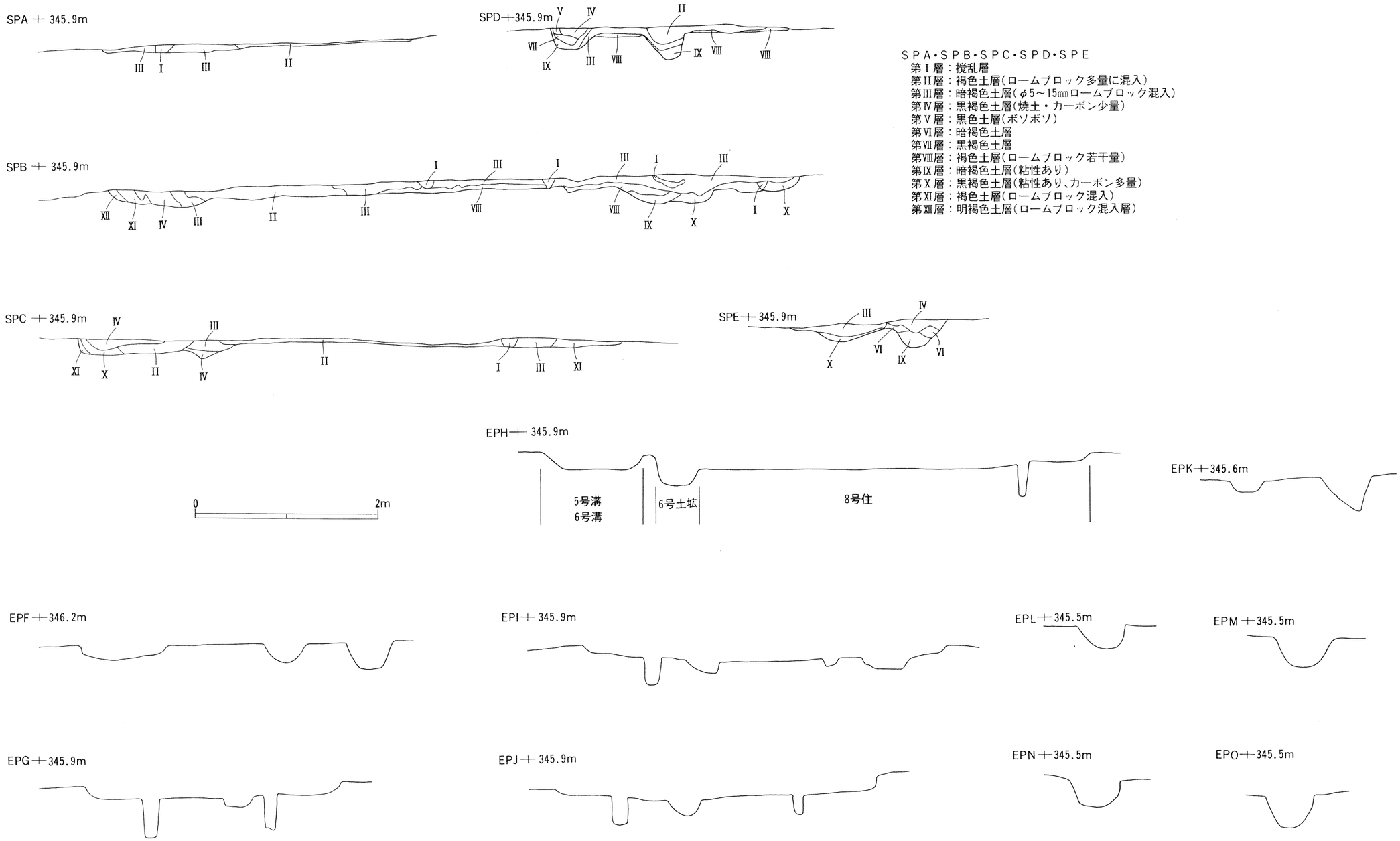


ＳＰＣ
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：暗褐色土層（焼土・カーボン・ロームブロック混入）
第Ⅲ層：黒褐色土層（焼土・カーボン混入）
第Ⅳ層：暗褐色土層（ロームブロック混入）
第Ⅴ層：暗褐色土層（φ5～10㎜ロームブロック多量）
第Ⅵ層：褐色土層（φ5～15㎜ロームブロック多量）
ＳＰＤ
第Ⅰ層：暗褐色土層（φ5～15㎜ロームブロック混入）
第Ⅱ層：褐色土層（φ10～15㎜ロームブロック混入）
第Ⅲ層：明褐色土層（ロームブロック混入層）
第Ⅳ層：黒褐色土層（焼土・カーボン少量）

第21図　第５号溝状遺構

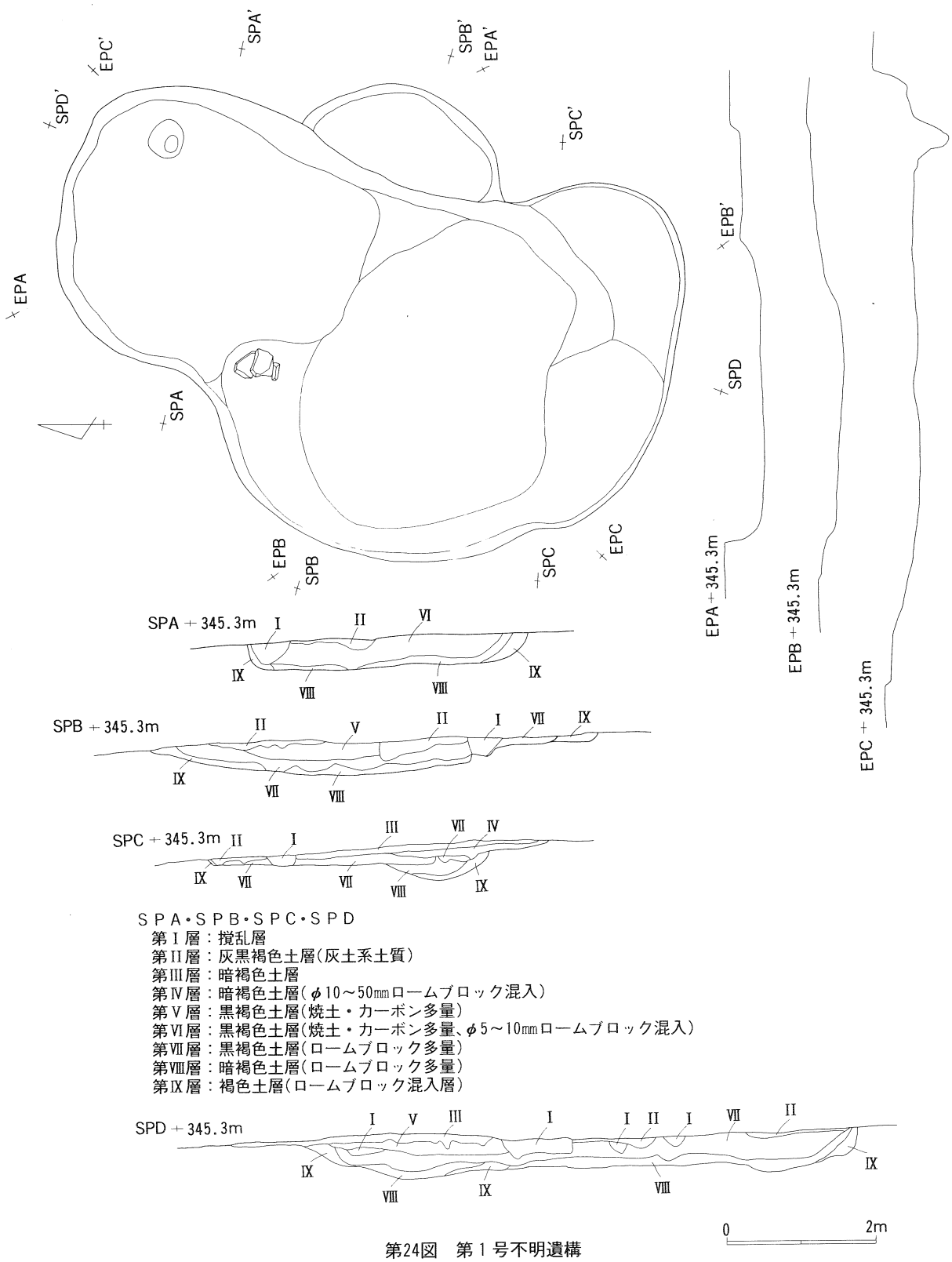


第22図　第６号・第７号溝状遺構(No.1)



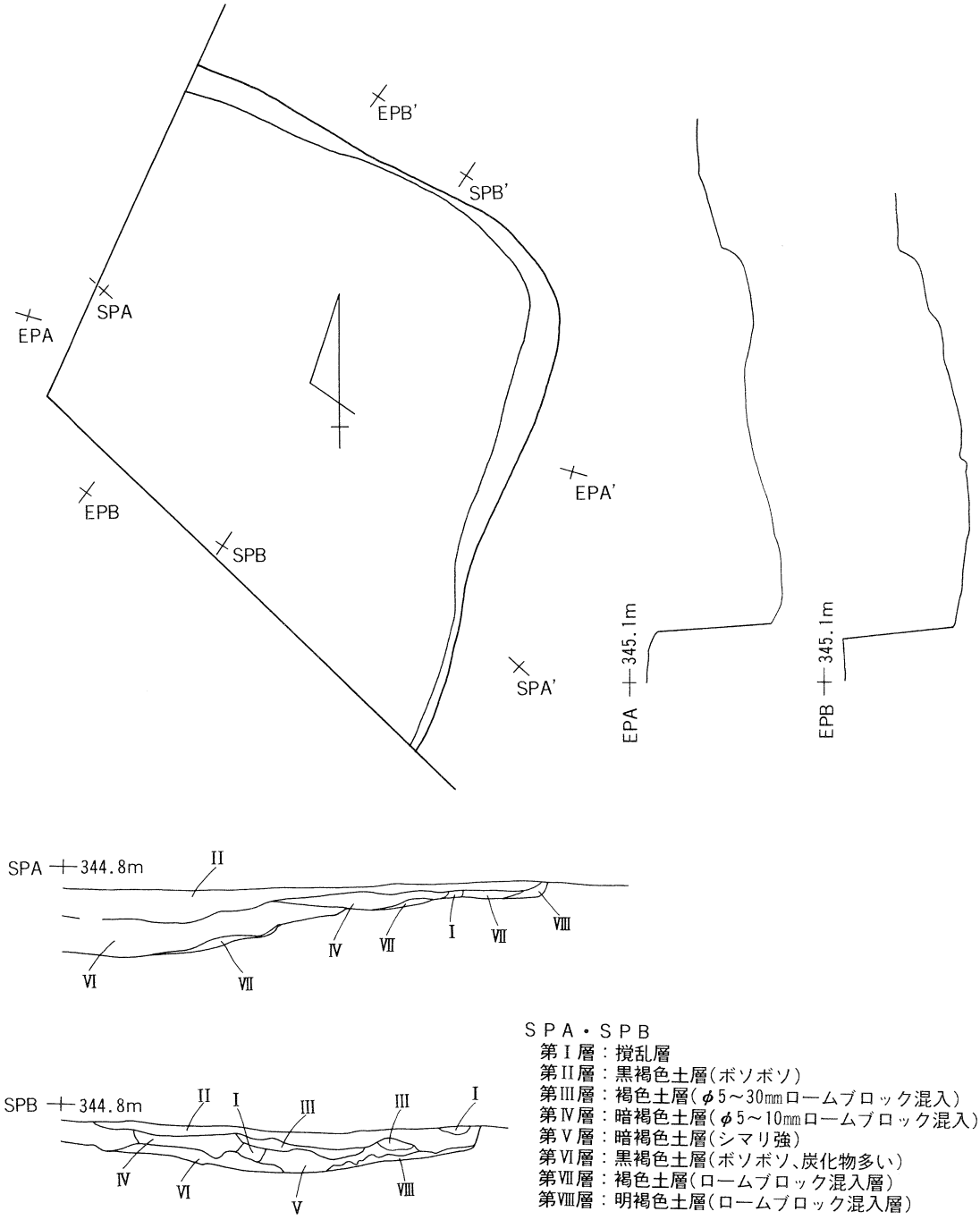
ＳＰＡ・ＳＰＢ・ＳＰＣ・ＳＰＤ・ＳＰＥ
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：褐色土層(ロームブロック多量に混入)
第Ⅲ層：暗褐色土層(φ5～15㎜ロームブロック混入)
第Ⅳ層：黒褐色土層(焼土・カーボン少量)
第Ⅴ層：黒色土層(ボソボソ)
第Ⅵ層：暗褐色土層
第Ⅶ層：黒褐色土層
第Ⅷ層：褐色土層(ロームブロック若干量)
第Ⅸ層：暗褐色土層(粘性あり)
第Ⅹ層：黒褐色土層(粘性あり、カーボン多量)
第Ⅺ層：褐色土層(ロームブロック混入)
第Ⅻ層：明褐色土層(ロームブロック混入層)

第23図　第６号・第７号溝状遺構(No.2)
〈※第８号住居址・第６号土坑を含む〉



ＳＰＡ・ＳＰＢ・ＳＰＣ・ＳＰＤ
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：灰黒褐色土層（灰土系土質）
第Ⅲ層：暗褐色土層
第Ⅳ層：暗褐色土層（φ10～50㎜ロームブロック混入）
第Ⅴ層：黒褐色土層（焼土・カーボン多量）
第Ⅵ層：黒褐色土層（焼土・カーボン多量、φ5～10㎜ロームブロック混入）
第Ⅶ層：黒褐色土層（ロームブロック多量）
第Ⅷ層：暗褐色土層（ロームブロック多量）
第Ⅸ層：褐色土層（ロームブロック混入層）

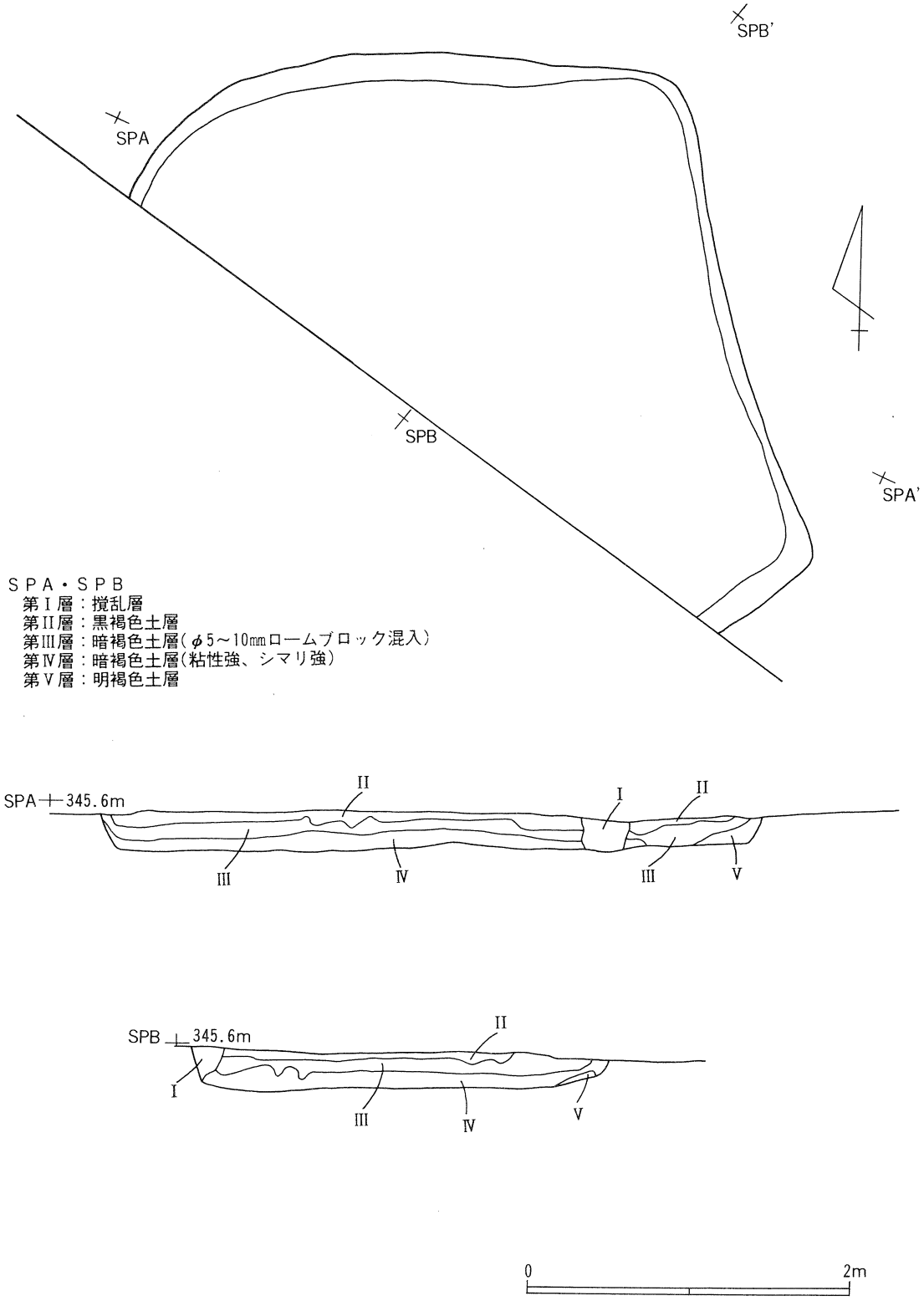
第24図　第１号不明遺構



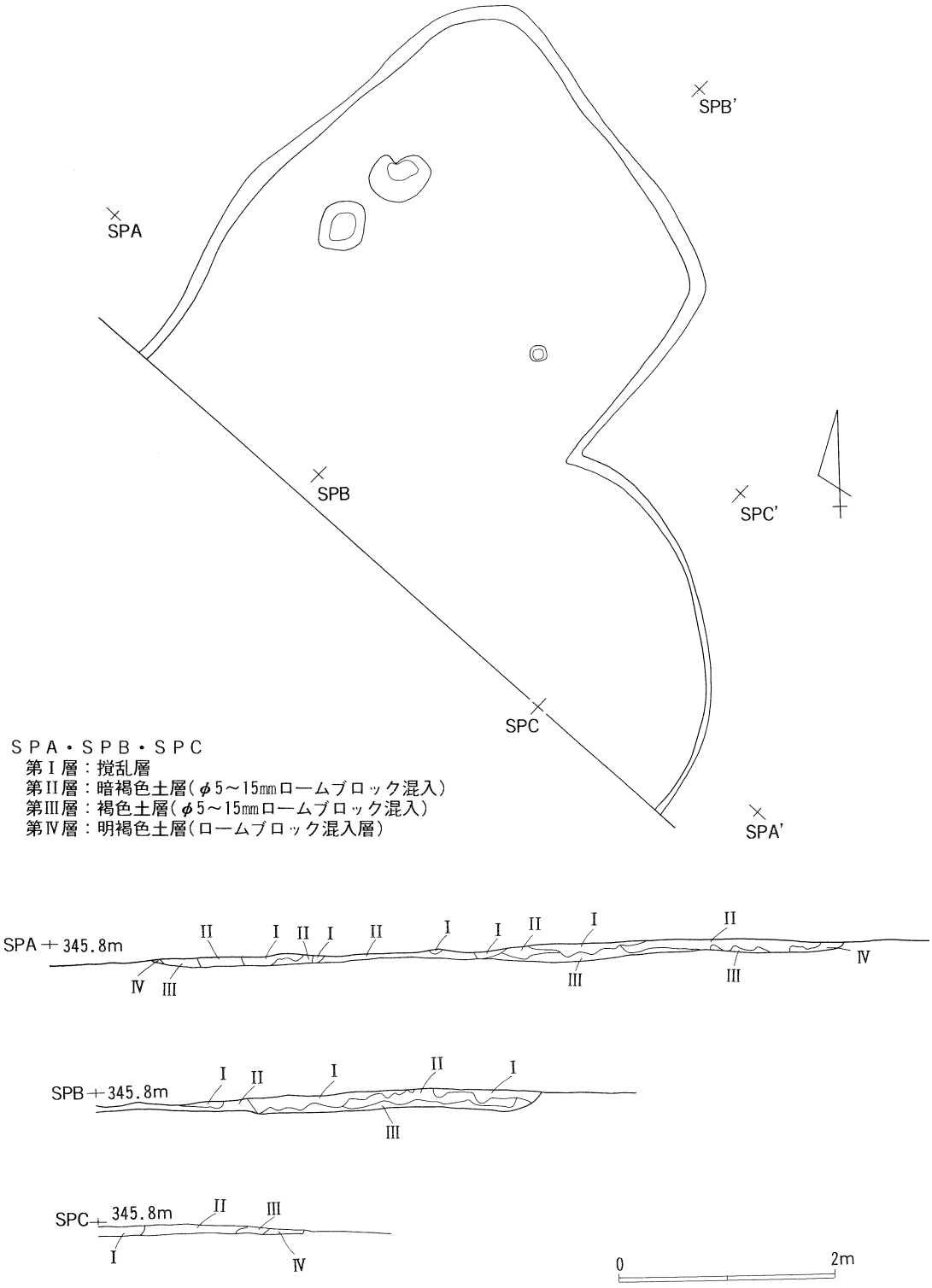
SPA・SPB
第Ⅰ層：撹乱層
第Ⅱ層：黒褐色土層(ボソボソ)
第Ⅲ層：褐色土層(φ5～30㎜ロームブロック混入)
第Ⅳ層：暗褐色土層(φ5～10㎜ロームブロック混入)
第Ⅴ層：暗褐色土層(シマリ強)
第Ⅵ層：黒褐色土層(ボソボソ、炭化物多い)
第Ⅶ層：褐色土層(ロームブロック混入層)
第Ⅷ層：明褐色土層(ロームブロック混入層)

第25図　第２号不明遺構

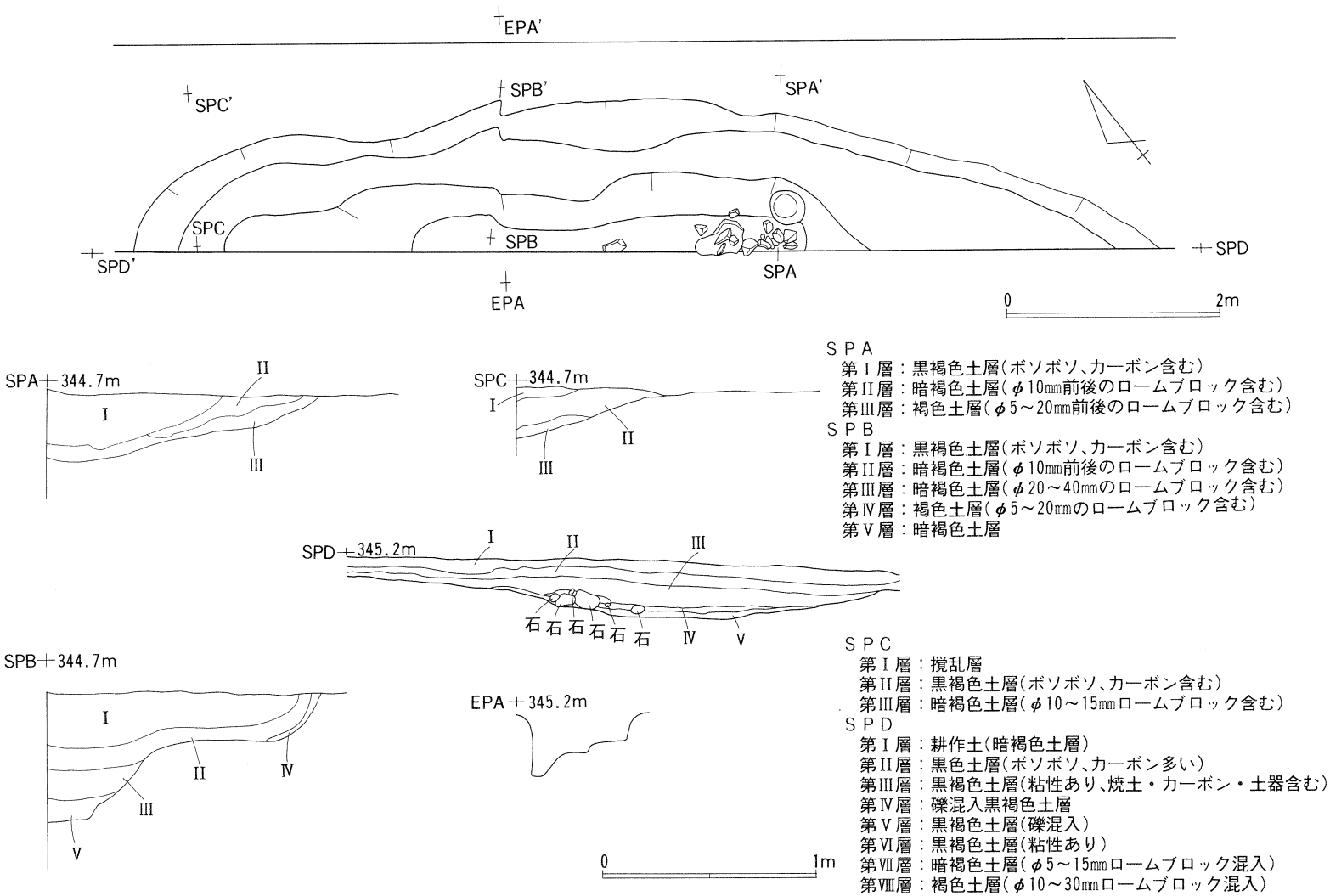
0　1m



第26図　第３号不明遺構



第27図　第４号不明遺構



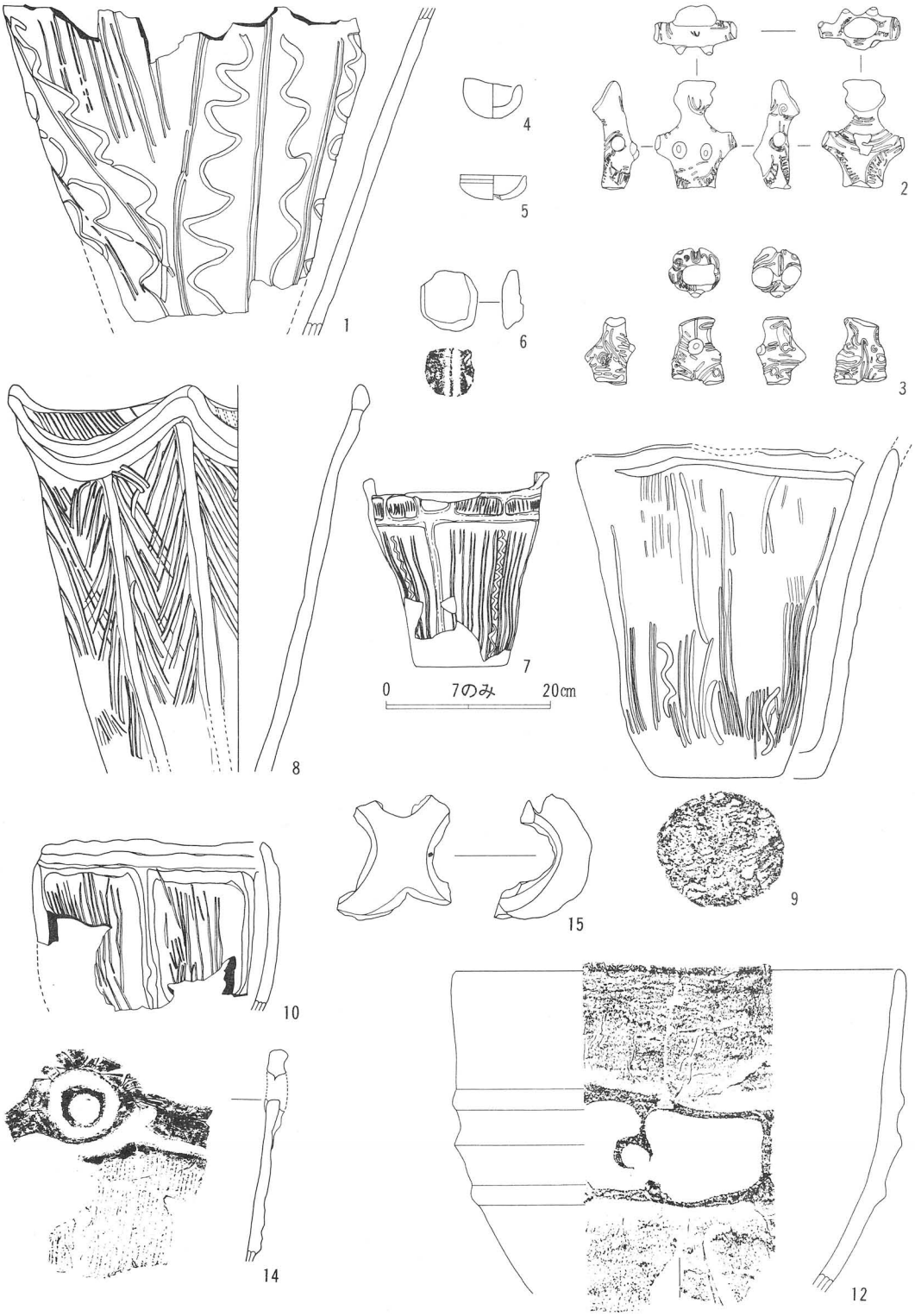
ＳＰＡ
第Ｉ層：黒褐色土層(ボソボソ、カーボン含む)
第II層：暗褐色土層(φ10㎜前後のロームブロック含む)
第III層：褐色土層(φ5～20㎜前後のロームブロック含む)

ＳＰＢ
第Ｉ層：黒褐色土層(ボソボソ、カーボン含む)
第II層：暗褐色土層(φ10㎜前後のロームブロック含む)
第III層：暗褐色土層(φ20～40㎜のロームブロック含む)
第IV層：褐色土層(φ5～20㎜のロームブロック含む)
第Ｖ層：暗褐色土層

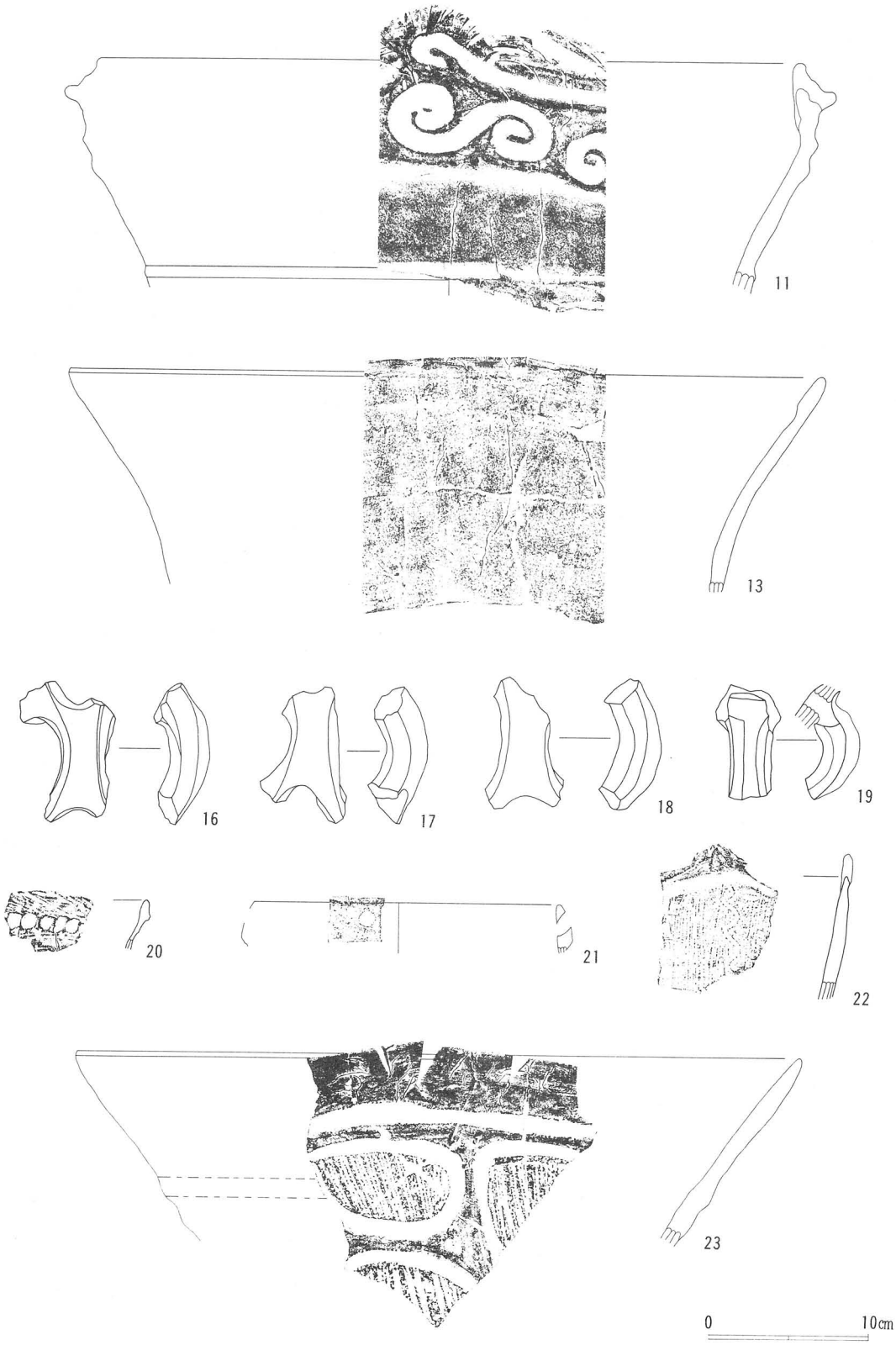
ＳＰＣ
第Ｉ層：撹乱層
第II層：黒褐色土層(ボソボソ、カーボン含む)
第III層：暗褐色土層(φ10～15㎜ロームブロック含む)

ＳＰＤ
第Ｉ層：耕作土(暗褐色土層)
第II層：黒色土層(ボソボソ、カーボン多い)
第III層：黒褐色土層(粘性あり、焼土・カーボン・土器含む)
第IV層：礫混入黒褐色土層
第Ｖ層：黒褐色土層(礫混入)
第VI層：黒褐色土層(粘性あり)
第VII層：暗褐色土層(φ5～15㎜ロームブロック混入)
第VIII層：褐色土層(φ10～30㎜ロームブロック混入)

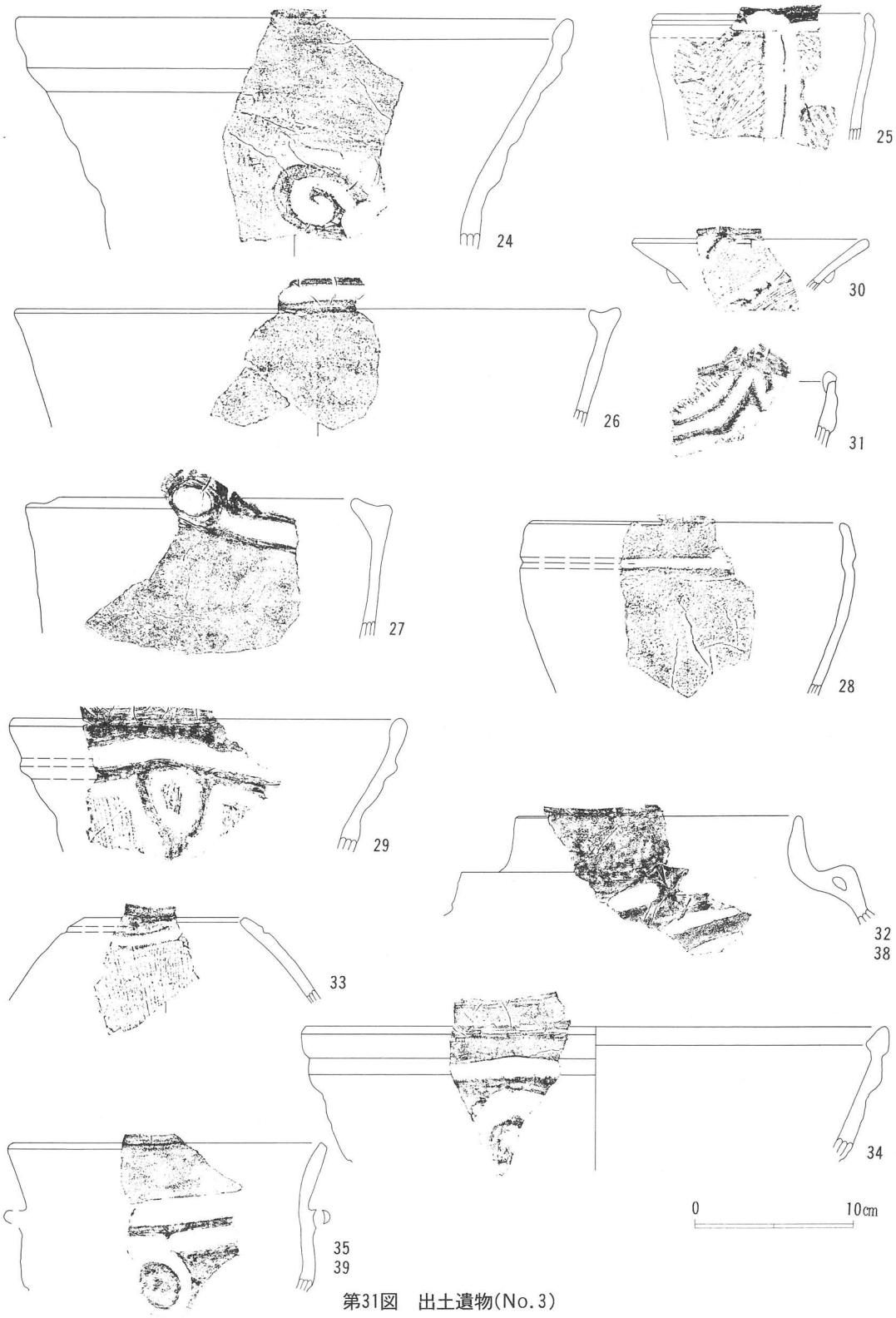
第28図　第５号不明遺構



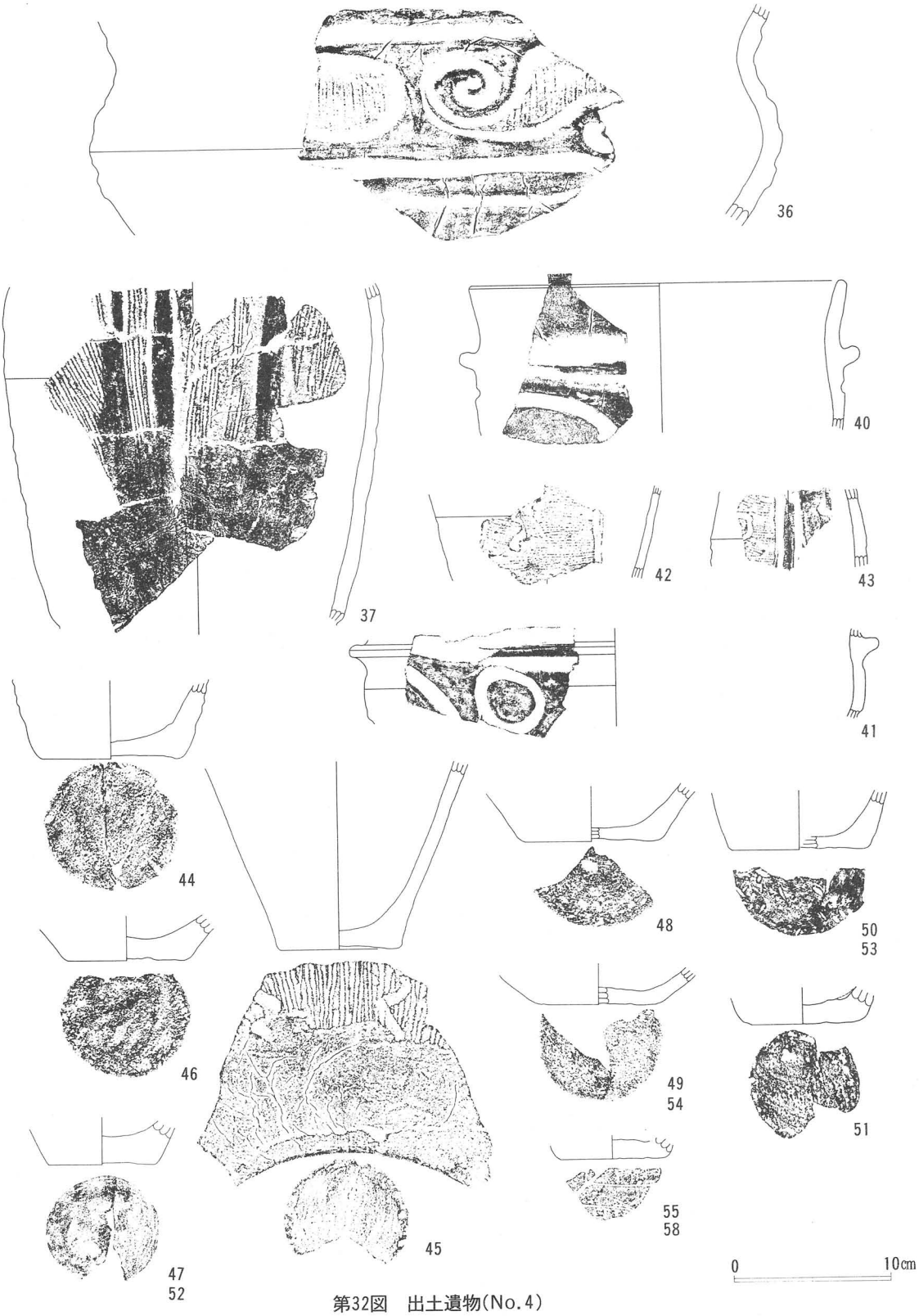
第29図　出土遺物(No.1)



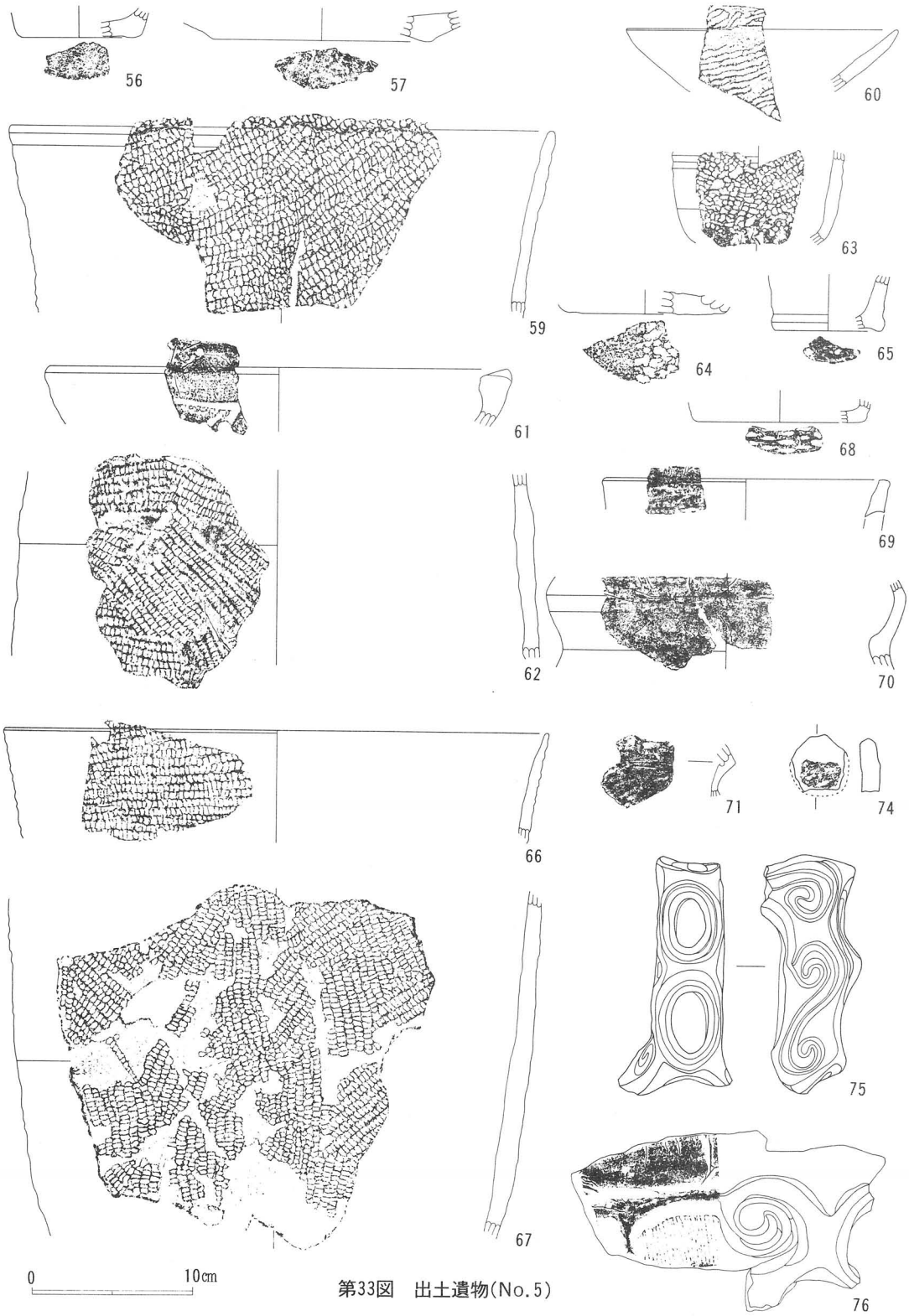
第30図　出土遺物(No.2)



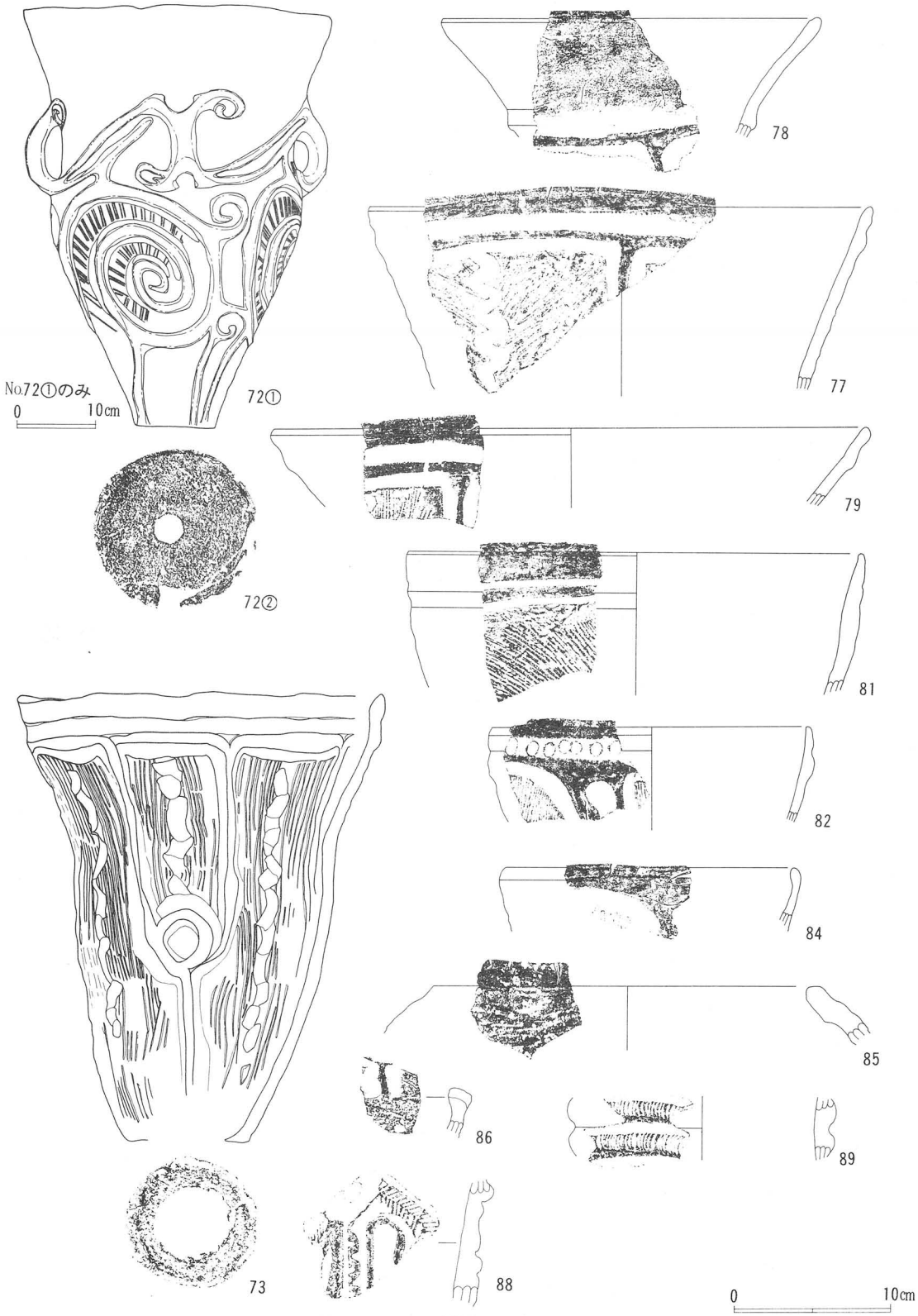
第31図　出土遺物(No.3)



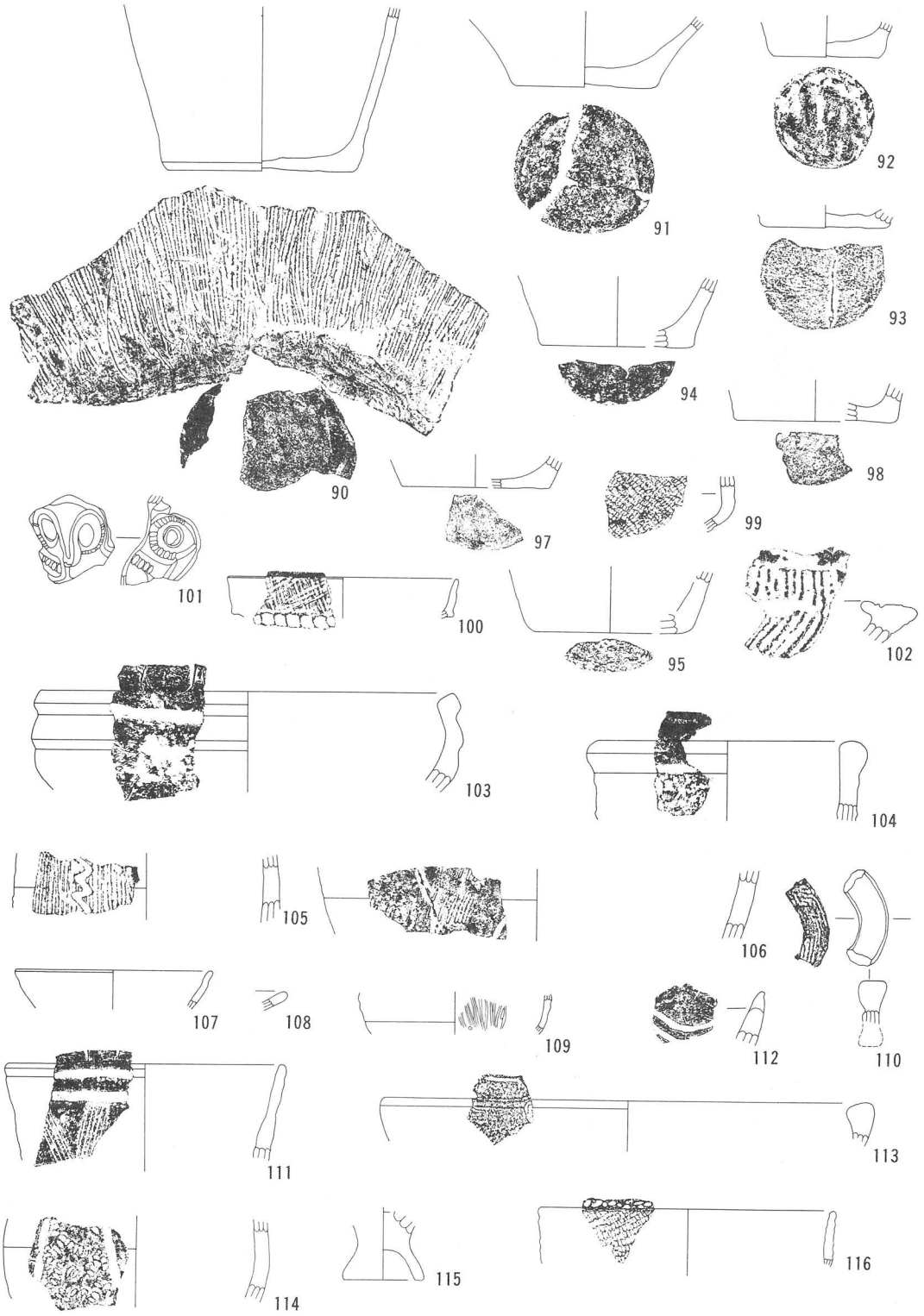
第32図　出土遺物(No.4)



第33図　出土遺物(No.5)

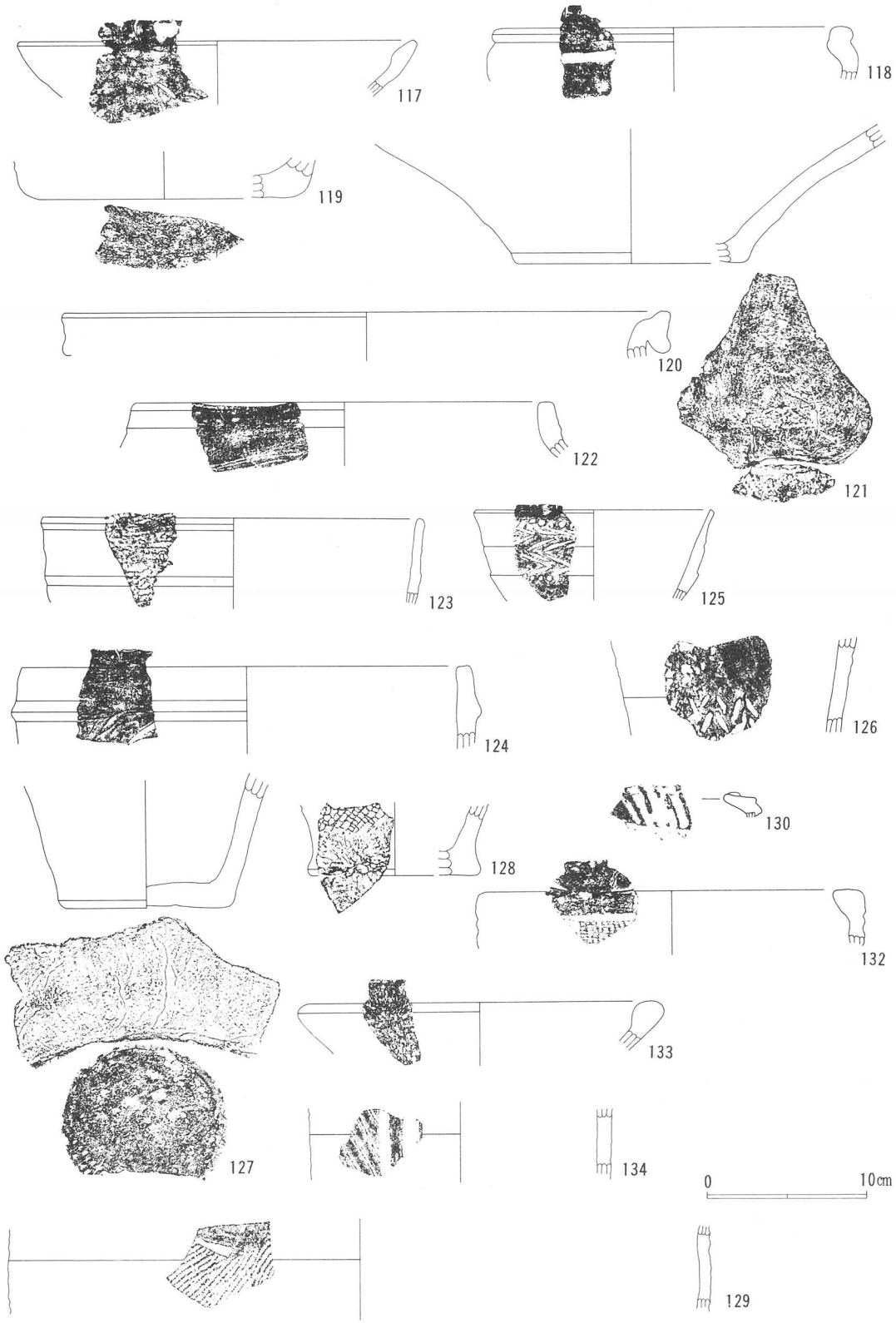


第34図　出土遺物(No. 6)

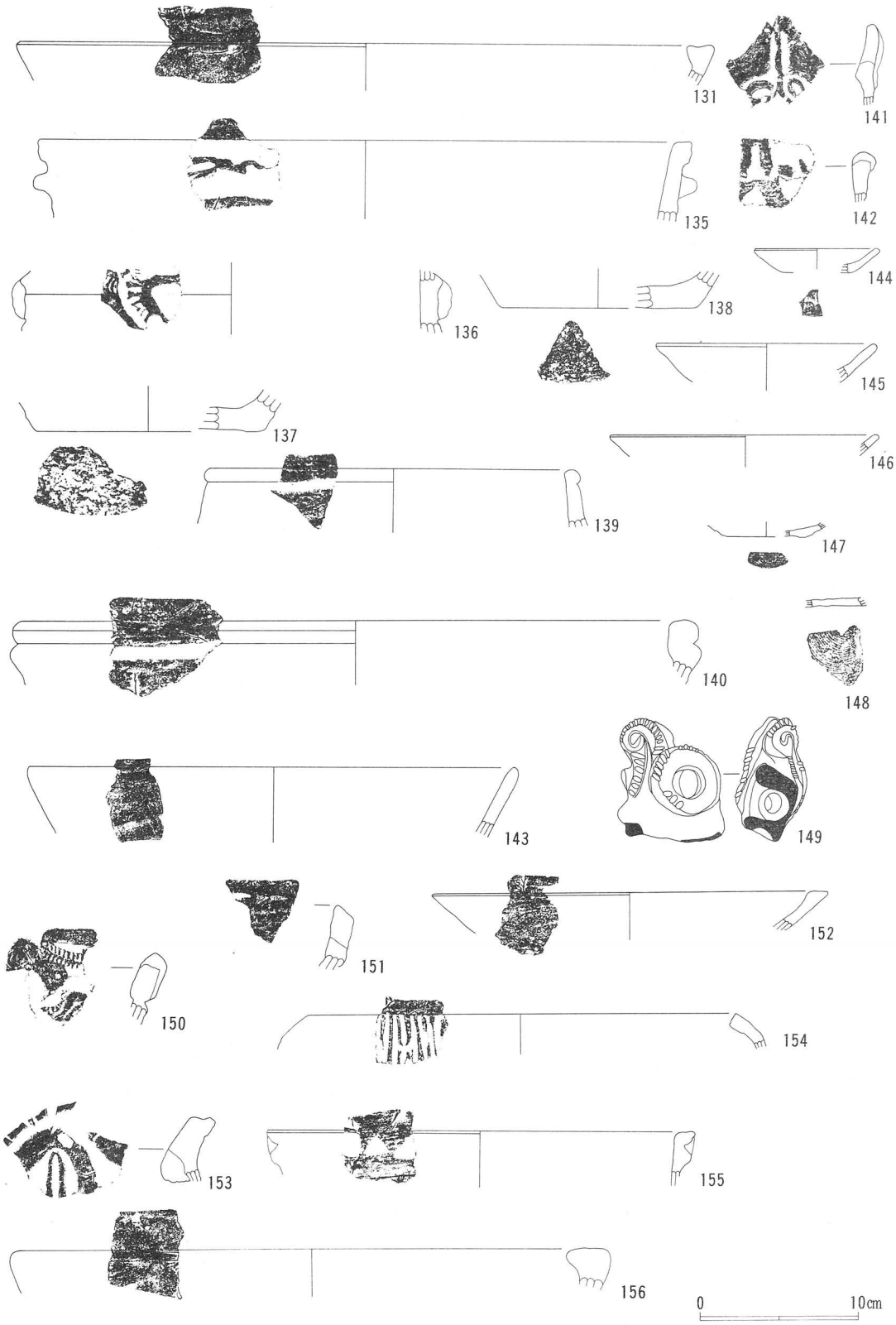


第35図　出土遺物(No.7)

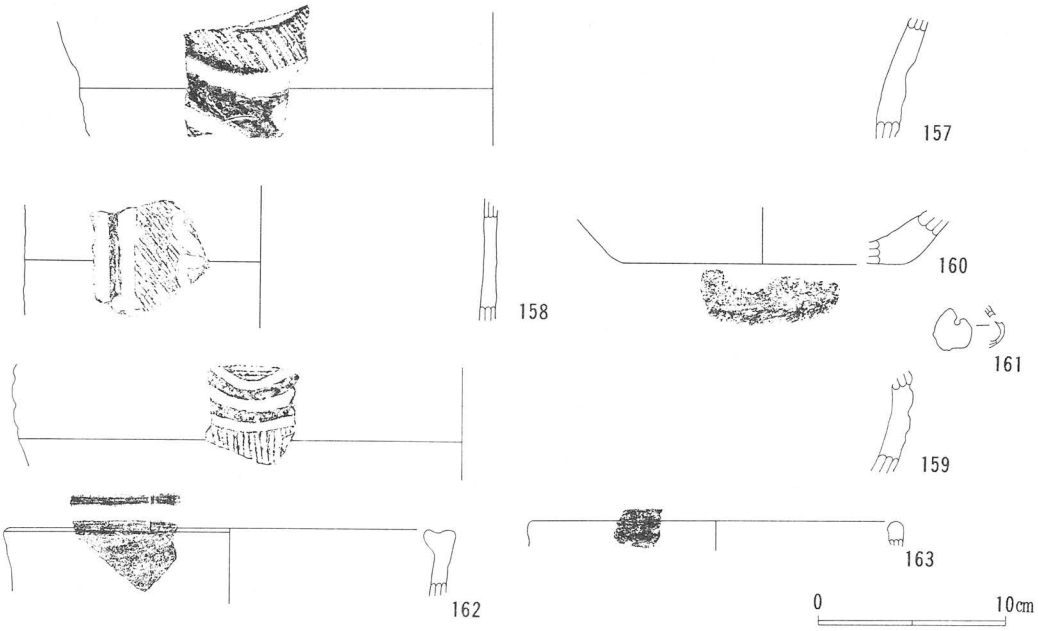
0　10cm



第36図　出土遺物(No.8)



第37図　出土遺物(No.9)



第38図　出土遺物(No.10)

第 3 節　出 土 遺 物

1、出土土器　　（　）は推定　（単位：mm）

No.	出土地点	器種・器形	口径	頸径	底径	器高	整形・特徴等
1	1 号 住	深鉢	240				埋甕、縦位沈線文上に蛇行沈線文
2	〃	土偶					
3	〃	〃					
4	〃	ミニチュア	34		10	24	
5	〃	〃	(40)		(10)	15	
6	〃	土製円盤					
7	〃	深鉢	231		(102)	303	把手付深鉢、口縁部下区画隆帯文、以下、隆帯文、二重沈線文、蛇行沈線文
8	〃	浅鉢	221		(110)	236	波状口縁、口縁部下二重隆帯円弧文、以下、斜位沈線文
9	〃	深鉢	163		75	200	波状口縁、口縁下横位沈線文、以下、条線
10	〃	〃	135				不整波状口縁、口縁部下横位沈線文、以下、縦位隆帯文間に条線
11	〃	〃	(480)				波状口縁、口縁部下相対渦巻文
12	〃	〃	(270)				区画隆帯文
13	〃	〃	(470)				把手付？
14	〃	〃					把手付深鉢、波状口縁、口縁部下横位沈線文、以下、縦位条線文施文後に縦位蛇行沈線文
15	〃	把手					
16	〃	〃					
17	〃	〃					
18	〃	〃					
19	〃	〃					
20	〃	浅鉢？	(220)				外来遺物、灰褐色
21	〃	鉢形土器	(100)				有孔鉢形土器、外面赤彩
22	〃	深鉢					波状口縁、口縁部下横位沈線文、以下、縦位条線文施文後に縦位蛇行沈線文
23	〃	〃	(350)				区画隆帯文間に斜位条線文
24	〃	〃	(220)				
25	〃	〃	(140)				口縁部下横位沈線文、以下、縦位隆帯文間に斜位条線
26	〃	浅鉢	(380)				
27	〃	深鉢	(230)				波状口縁、外面赤彩？
28	〃	浅鉢？	(210)				
29	〃	深鉢	(250)				区画文内に条線
30	〃	〃	(150)				口唇部直下斜位条線、以後、粘土貼付による斜位隆帯文
31	〃	〃					波状口縁、二重円弧文、斜位条線
32	〃	鉢形土器	(180)				No38と接合、把手付
33	〃	深鉢	(100)				波状口縁、横位沈線文、以下、縦位条線
34	〃	〃	(370)				外面赤彩
35	〃	壺形土器	(220)				No39と接合、鍔付、鍔にのみ有孔
36	〃	深鉢					渦巻状沈線文、区画隆帯文内に縦位条線
37	〃	〃					縦位隆帯文間に縦位条線
38	〃	鉢形土器	(180)				No32と接合

（　）は推定　（単位：mm）

No.	出土地点	器種・器形	口径	頸径	底径	器高	整形・特徴等
39	1　号　住	壺形土器	(220)				No35と接合
40	〃	〃	(240)				No35とペア？
41	〃	壺形土器					鍔付壺形土器
42	〃	深鉢					条線文上に縦位沈線文、蛇文
43	〃	〃					縦位二重沈線文間に、横位条線、蛇文
44	〃	〃			86		条線
45	〃	〃			80		条線
46	〃	〃			80		
47	〃	?			70		No52と接合、外面赤彩
48	〃	深鉢			90		
49	〃	鉢形土器			80		No54と接合
50	〃	〃			(90)		No53と接合
51	〃	深鉢			74		
52	〃	?			70		No47と接合
53	〃	鉢形土器			(90)		No50と接合
54	〃	〃			80		No49と接合
55	〃	?			70		No58と接合、木葉痕
56	〃	?			(80)		
57	〃	壺形土器			(140)		木葉痕？
58	〃	?			70		No55と接合
59	2　号　住	深鉢	(350)				
60	〃	鉢形土器	(170)				折返口縁
61	〃	〃	(290)				波状口縁
62	〃	深鉢					
63	〃	〃					内面に炭化物付着
64	〃	?			(100)		
65	〃	鉢形土器			(70)		内面にスス付着
66	〃	深鉢	(350)				No9とセット？口唇部縄文
67	〃	〃					
68	〃	?			(110)		内面にスス付着
69	3　号　住	鉢形土器	(180)				
70	〃	深鉢					
71	4　号　住	鉢形土器					波状口縁、外面赤彩？
72	6　号　住	大型深鉢	382		101	528	逆位埋甕、底部穿孔土器、4点把手、渦巻状隆帯文間に条線
73	〃	深鉢	230		80	285	正位埋甕、口唇部下横位隆帯文、以下、縦位隆帯文間に縦位結束条線文、底部穿孔土器
74	〃	土製円盤					
75	〃	吊手土器					懸垂孔を有す
76	〃	深鉢					X状把手、区画文内に条線、渦巻状隆帯文
77	〃	〃	(320)				横位二重沈線文、以下、斜位条線上に縦位蛇行沈線文
78	〃	深鉢	(240)				内面にスス付着

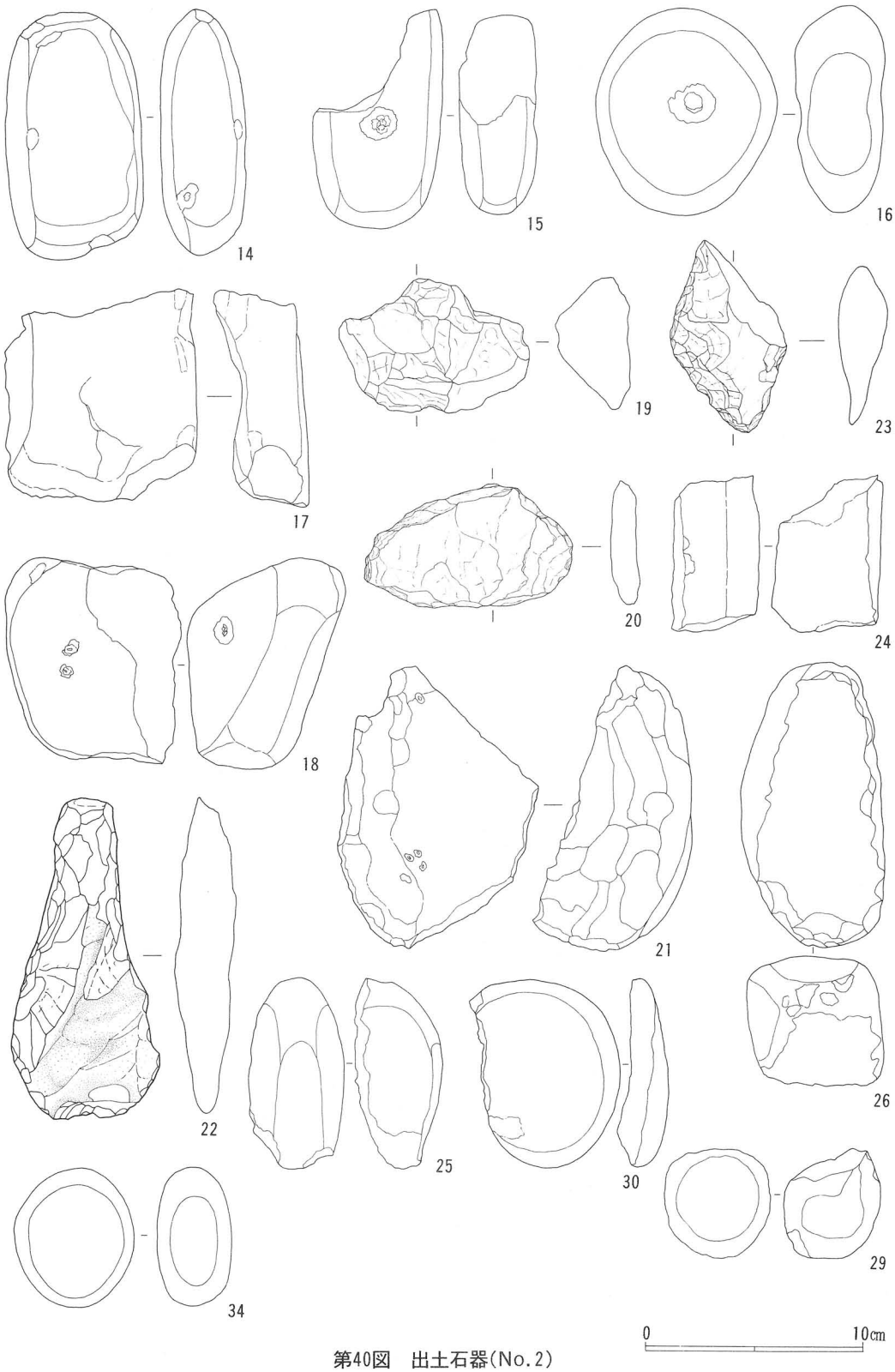
（　）は推定　（単位：mm）

No.	出土地点	器種・器形	口径	頸径	底径	器高	整形・特徴等
79	6号住	深鉢	(380)				
81	〃	深鉢	(290)				口縁部下横位二重沈線文、以下、斜位条線
82	〃	鉢形土器	(200)				口縁部下横位連続刺突文
84	〃	鉢形土器	(190)				区画文内に縦位条線
85	〃	〃	(250)				
86	〃	?					口唇部に粘土紐貼付
88	〃	深鉢					キャタピラ文
89	〃	〃					横位二重爪形文
90	〃				110		縦位条線地に蛇文
91	〃	壺形土器			86		
92	〃	深鉢			86		
93	〃	?			76		
94	〃	鉢形土器			(90)		外面赤彩？
95	〃	深鉢			(90)		
97	〃	鉢形土器			(90)		内外面にススト付着
98	〃	〃			(100)		
99	7号住	〃					
100	8号住		(140)				外来遺物、口唇部直下斜交条線、灰褐色
101	9号住	深鉢把手					連続刻文
102	〃	浅鉢？	(340)				口縁部下横位沈線文、以下、縦位連続沈線文
103	〃	鉢形土器	(250)				
104	〃	深鉢	(170)				
105	〃	〃					
106	〃	〃					
107	3号土坑	坏	(120)				
108	〃	〃	(90)				
109	〃	埦					9世紀前半
110	1号溝	耳栓					全面黒褐色
111	〃	深鉢	(170)				口縁部下横位二重沈線文、以下、「ハ」の字状条線
112	〃	鉢形土器					波状口縁
113	〃	〃	(300)				
114	〃	壺形土器					縦位沈線文間に連続「ハ」の字状刺突文
115	〃	特殊器台？					混入遺物、内外面赤彩、推定脚径50mm
116	4号溝	深鉢	(180)				口唇部縄文
117	6号溝	〃	(250)				
118	〃	鉢形土器	(220)				
119	〃	深鉢			(160)		
120	〃	?	(380)				常滑焼口縁、13世紀後半～14世紀前半
121	〃	?			(140)		常滑焼底部、時代不明（No.120から考え13世紀後半）
122	不明遺構1	浅鉢	(260)				

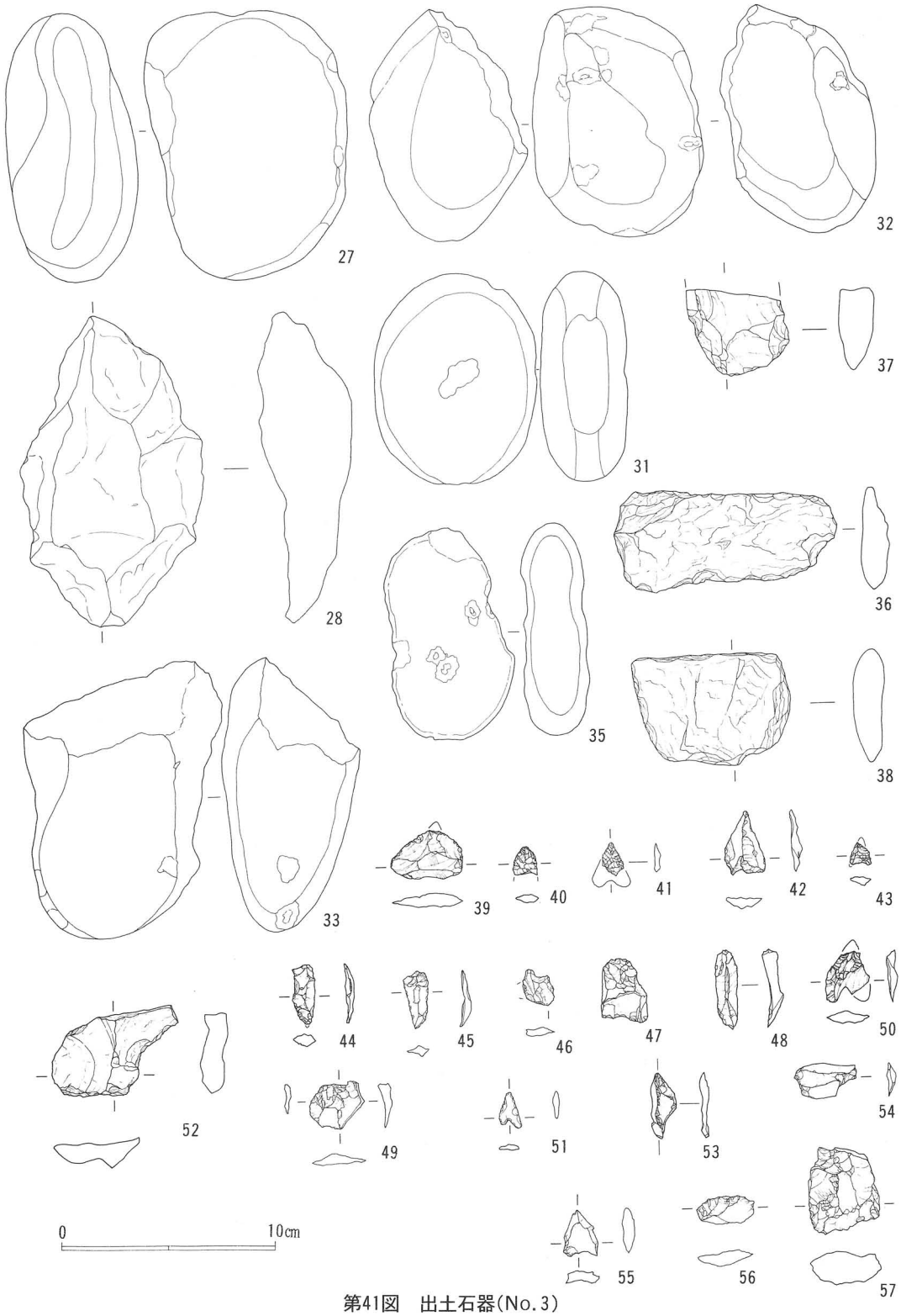
（　）は推定　（単位：mm）

No.	出土地点	器種・器形	口径	頸径	底径	器高	整形・特徴等
123	不明遺構1	深鉢	(240)				全面縄文
124	〃	〃	(280)				ヘラによる整形を全面に施す
125	〃	鉢形土器	(150)				口唇部下に横位連続刺突文、以下、斜位沈線文
126	〃	深鉢					「ハ」の字文
127	〃	鉢形土器			100		
128	〃	〃			(100)		
129	〃	壺					須恵器
130	不明遺構2	鉢形土器	(120)				口唇部に貼付あり
131	不明遺構3	浅鉢	(440)				
132	〃	深鉢	(240)				口縁部下横位沈線文、以下、縄文
133	〃	鉢形土器	(230)				
134	〃	深鉢					縦位隆帯文間に斜位条線文
135	G±0区	鉢形土器	(410)				
136	I－3区	深鉢？					区画文上にキャタピラ文、更に区画文内に爪形文
137	I－5区	？			(140)		
138	I－3区	鉢形土器			(120)		
139	K－6区	深鉢	(230)				口唇部に粘土紐貼付
140	L－4区	〃	(420)				肥厚形土器
141	6号トレンチ	鉢形土器					波状口縁
142	〃	〃					口唇部に粘土紐貼付、以下、連続三角押文
143	7号トレンチ	深鉢	(310)				
144	8号トレンチ	坏	(80)			150	
145	〃	〃	(140)				
146	〃	〃	(170)				
147	〃	〃				(50)	
148	〃	？					糸切痕
149	不明遺構4	深鉢					口縁装飾、全面にキャタピラ文
150	〃	鉢形土器					波状口縁、折返口縁上にキャタピラ文
151	〃	浅鉢					波状口縁
152	〃	鉢形土器	(250)				
153	一括	深鉢					波状口縁
154	〃	鉢形土器？	(270)				縦位連続沈線文間に「U」字文
155	〃	鉢形土器	(270)				口唇部直下に連続三角押文
156	〃	深鉢	(380)				
157	〃	〃					渦巻文内に斜位条線
158	〃	〃					縦位隆帯文間に斜位条線、条線地に蛇行沈線文
159	〃	〃					円弧文
160	〃	〃			(150)		
161	表採	土鈴					
162	〃	鉢形土器	(240)				口唇部横位沈線文
163	〃	〃	(200)				小型鉢形土器

第39図　出土石器(No.1)



第40図　出土石器(No.2)



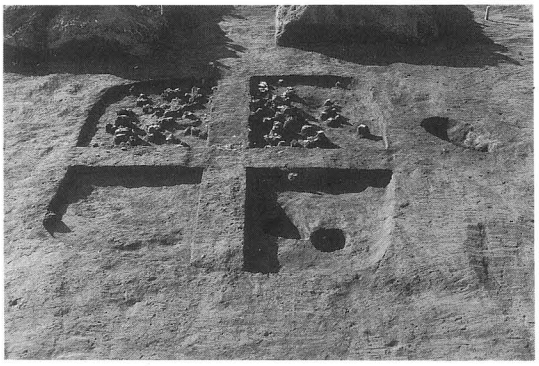
第41図　出土石器(No.3)

2、出土石器

（単位：mm）

No.	名称	出土地	素材	たて×よこ×はば	重(g)	備考
1	打製石斧	1号住	粘板岩	(42)×(78)×(9)	(30)	
2	敲石	〃		(38)×(170)×(24)	(230)	
3	磨石	〃	安山岩	(50)×(70)×(41)	(150)	凹石併用か？
4	敲石	〃		101×41×34	155	
5	敲石	〃		(55)×(43)×(38)	(120)	
6	磨石	〃	安山岩	(45)×(50)×(20)	(45)	1面使用
7	〃	〃	〃	38×37×33	50	
8	〃	2号住	〃	130×71×44	670	
9	〃	〃	〃	(44)×(63)×(36)	(80)	
10	敲石	〃		(63)×(77)×(35)	(130)	
11	磨石	〃	安山岩	(123)×(88)×(50)	(520)	敲石併用か？
12	凹石	4号住		64×85×38	250	3面使用
13	乳棒	6号住		(85)×(52)×(43)	(310)	
14	磨石・凹石	〃	安山岩	114×63×39	465	全面に磨痕あり
15	〃	〃	〃	(101)×(61)×(35)	(260)	全面に磨痕、凹石として1面使用
16	〃	〃	〃	95×83×42	465	
17	敲石	〃		100×90×46	415	
18	磨石・凹石	〃		(81)×(96)×(73)	(525)	
19	石匙	〃		62×87×33	140	粗雑な整形
20	打製石斧	8号住		58×96×12	75	
21	敲石	9号住		(130)×(93)×(72)	(615)	石皿の再利用か？
22	打製石斧	6号溝	粘板岩	149×69×26	210	分銅型
23	〃	〃		(89)×54×22	(90)	
24	敲石	〃		(72)×(40)×(50)	(140)	
25	磨石	〃	安山岩	(88)×(44)×(41)	(180)	全面使用
26	敲石	〃		131×66×62	800	1面のみ全面使用
27	磨石	〃	安山岩	127×94×61	940	
28	打製石斧	不明遺構3		146×85×44	440	
29	磨石	不明遺構4		50×49×44	105	
30	〃	D－1区	安山岩	87×68×24	140	
31	磨石・凹石	E＋1区		100×76×41	(450)	全面に磨痕あり、凹石として1面使用
32	磨石	K－3区		109×79×74	760	2面使用
33	敲石	J－4区		(129)×(94)×(65)	(830)	
34	磨石	6号トレンチ		64×55×34	165	全面に磨痕あり
35	凹石	8号トレンチ		(100)×(58)×(31)	(160)	2面使用
36	打製石斧	一括	細粒砂岩	48×105×13	65	
37	〃	〃	〃	(42)×(48)×(11)	(40)	
38	〃	〃	〃	53×74×15	65	
39	石鏃	1号住	黒曜石	23×34×7	5	平基無茎
40	〃	〃	〃	12×11×3	0.4	平基無茎
41	〃	〃	〃	(16)×(9)×(3)	0.3	
42	〃	〃	〃	29×19×5	2.3	平基無茎
43	〃	〃	〃	(11)×(10)×(4)	0.3	凹基無茎
44	スクレイパー？	〃	〃	29×11×4	1.5	
45	スクレイパー	〃	〃	28×12×5	1.1	
46	石匙	〃	〃	18×14×3	0.7	
47	石鏃	2号住	〃	30×21×8	6.3	凹基無茎
48	スクレイパー	〃	〃	38×11×7	2.3	
49	？	3号住	〃	(22)×(26)×(6)	1.9	
50	石鏃	4号住	〃	(24)×(21)×(5)	1.5	凹基無茎
51	〃	6号住	砂質シルト岩?	(17)×(11)×(3)	0.1	〃
52	石匙	7号溝		(43)×(59)×(12)	28.8	
53	？	8号住	黒曜石	31×13×5	1.0	
54	石匙	〃	〃	17×30×5	1.7	
55	石鏃	D－1区	〃	(22)×(16)×(6)	(1.9)	凹基無茎
56	？	I－4区	〃	(13)×(27)×(5)	(2.5)	
57	石鏃	表採	〃	41×33×19	22.5	平基無茎

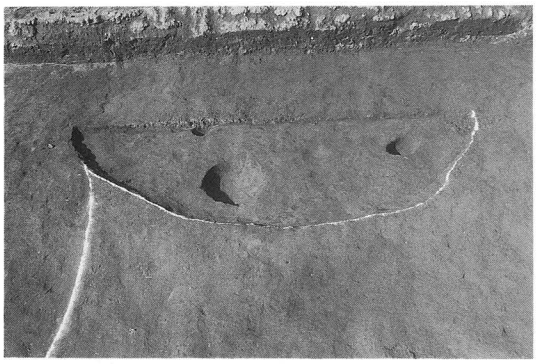
図版 1　第 3 号トレンチ完掘状況



図版 2　第 1 号住居址遺物出土状況

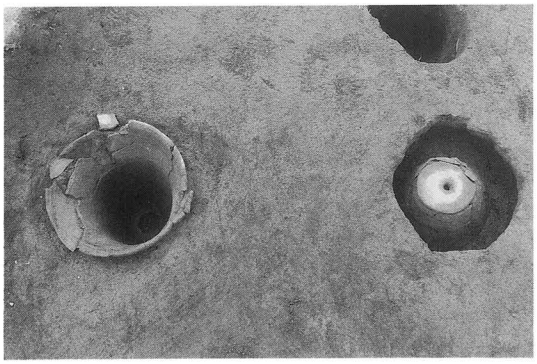
図版 3　第 1 号住居址

図版 4　第 2 号住居址

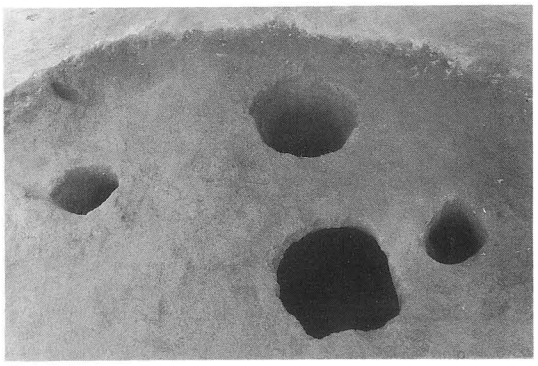


図版 5　第 3 号住居址

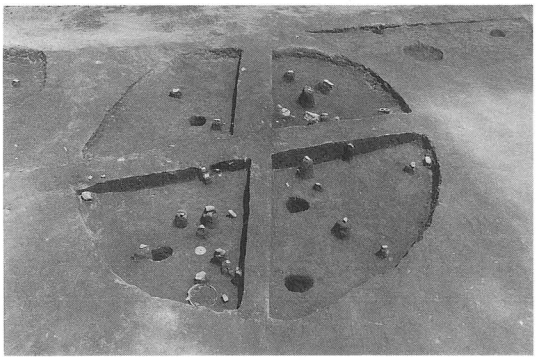
図版 6　第 4 号・第 5 号住居址



図版 7　第 6 号住居址内埋甕検出状況



図版 8　第 6 号住居址内埋甕取上状況

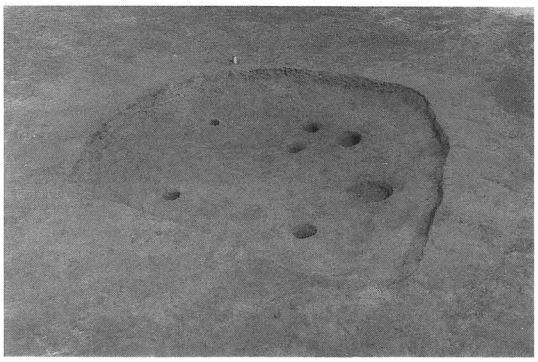


図版 9　第 6 号住居址遺物出土状況

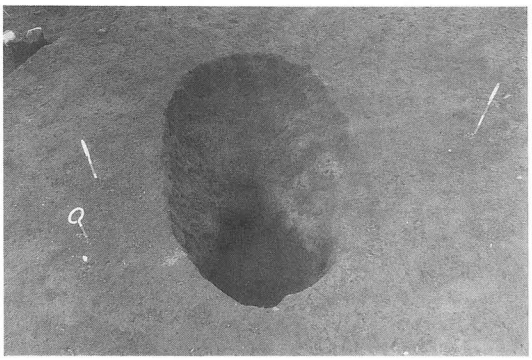
図版10　第 6 号住居址

図版11　第 7 号住居址

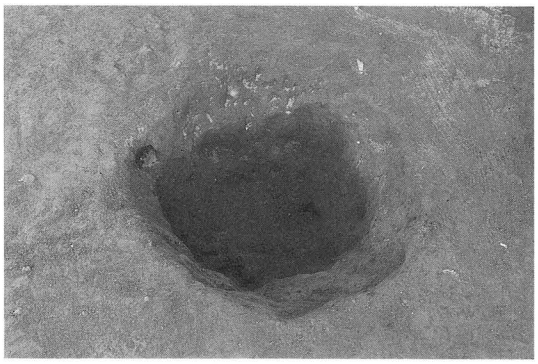
図版12　第 8 号住居址・第 6 号土坑



図版13　第 9 号住居址

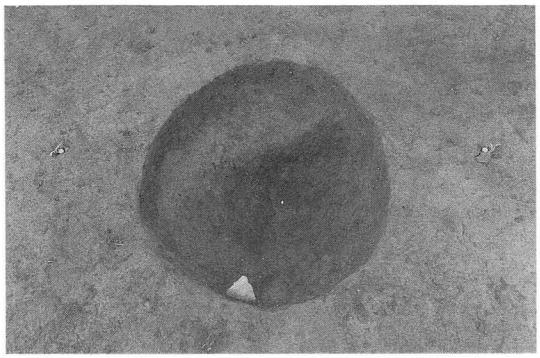


図版14　第 1 号土坑

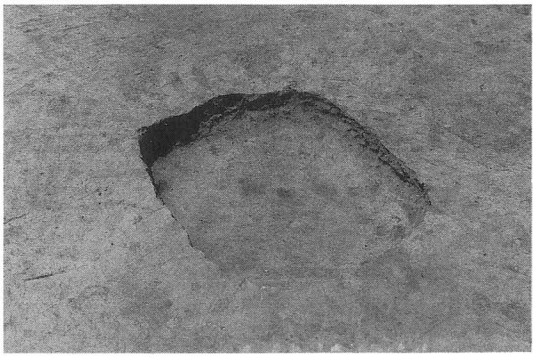


図版15　第 2 号土坑

図版16　第 3 号土坑・第 4 号溝状遺構

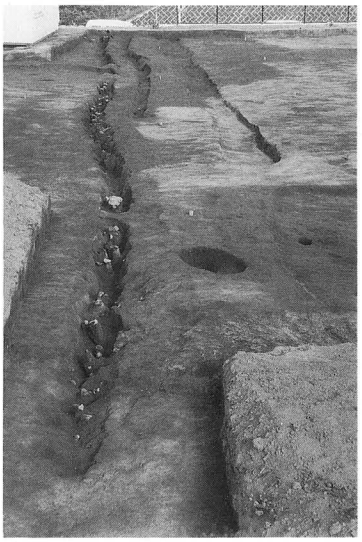


図版17　第４号土坑



図版18　第５号土坑

図版19　第１号トレンチ内第２号溝状遺構

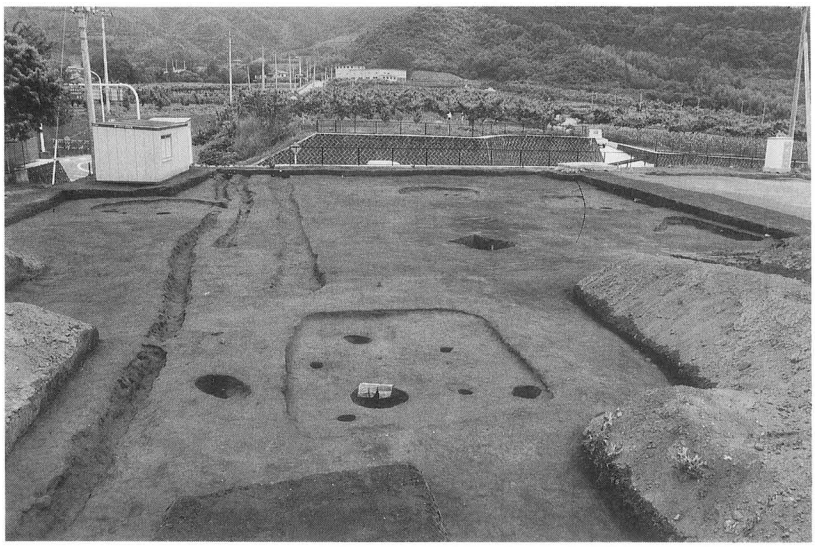


図版20　第４号・第５号・第６号
溝状遺構
（手前に第１号土坑）

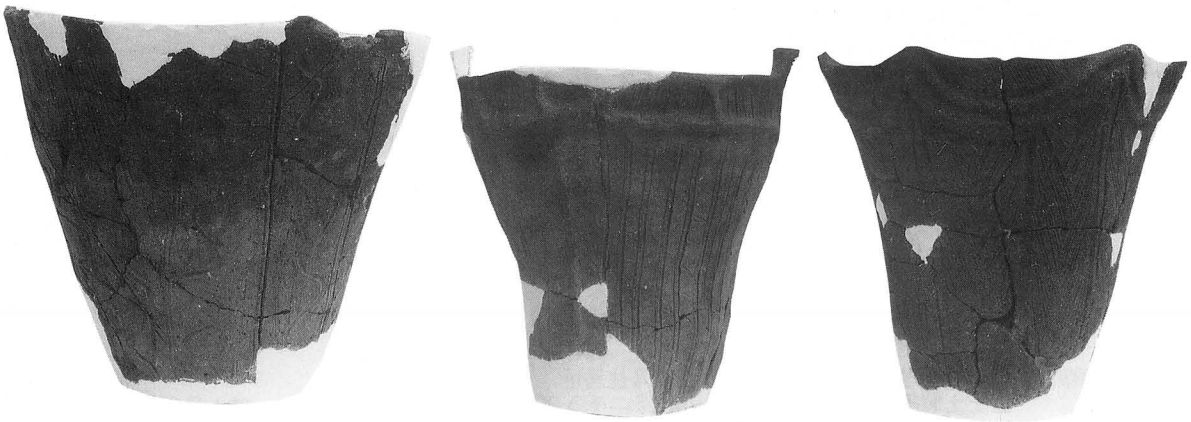
図版21　第１号不明遺構

図版22　第８号住居址付近作業風景

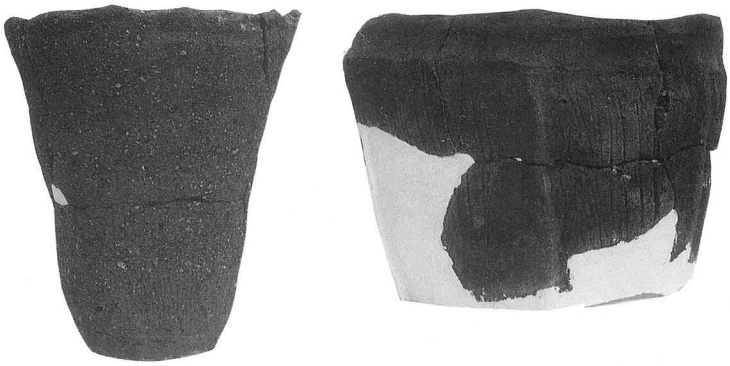
図版23　第１号不明遺構作業風景

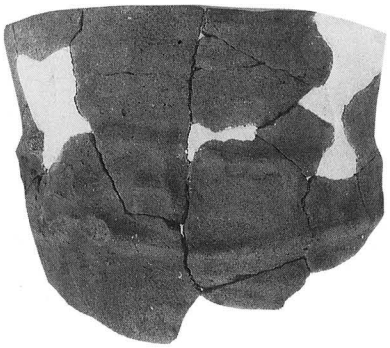


図版24　調査区全景



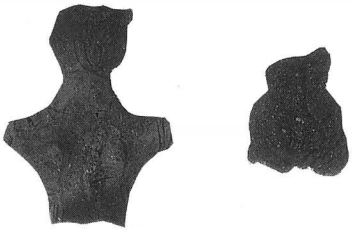
図版25　第１号住居址出土土器(No.1)



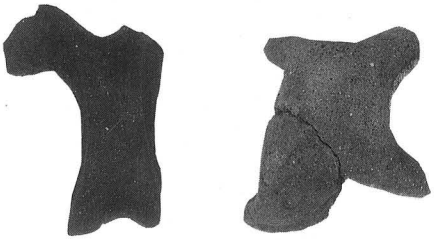


図版26　第１号住居址
出土土器(No.2)

(左)図版27　第６号住居址
出土底部穿孔土器
（２個体）



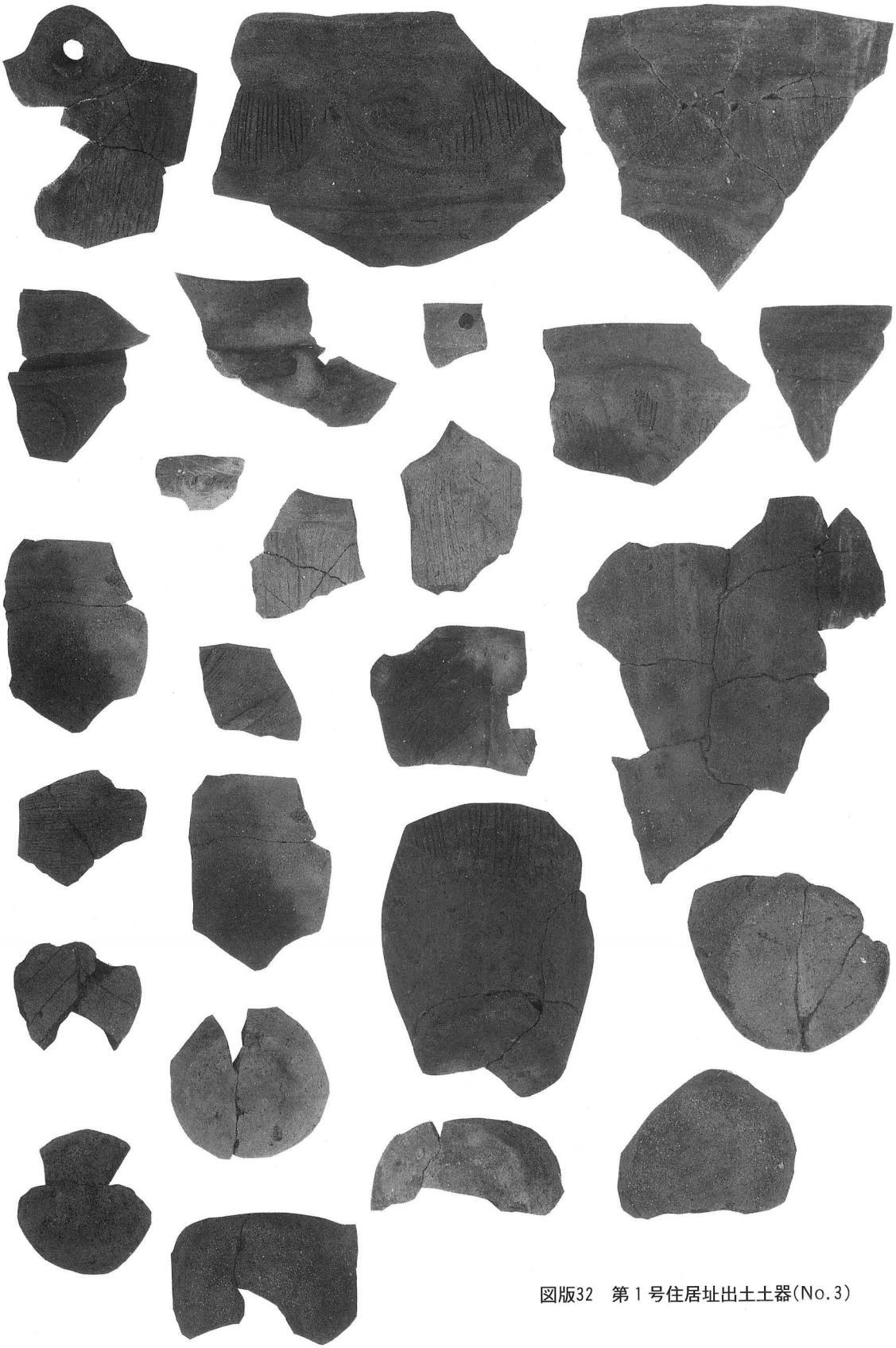
(上)図版28　第１号住居址
出土土偶



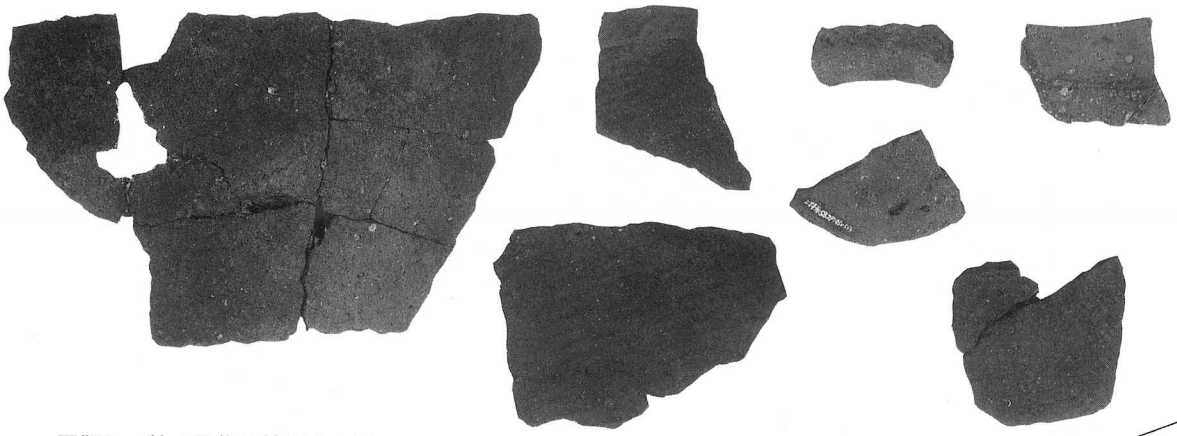
図版29　第１号住居址
出土土製円盤

図版30　第１号住居址
出土ミニチュア土器

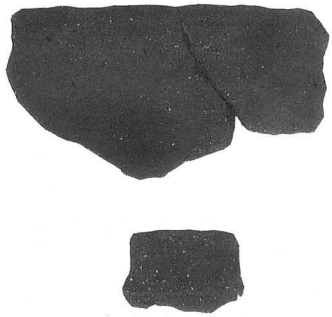
図版31　第１号住居址把手



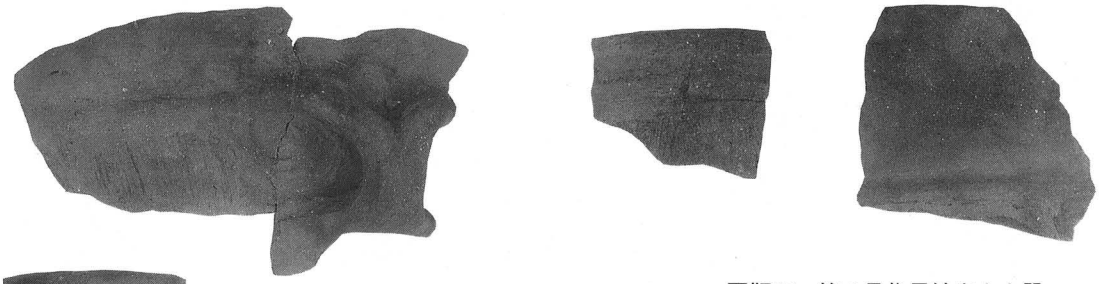
図版32　第１号住居址出土土器(No.3)



図版33　第 2 号住居址出土土器



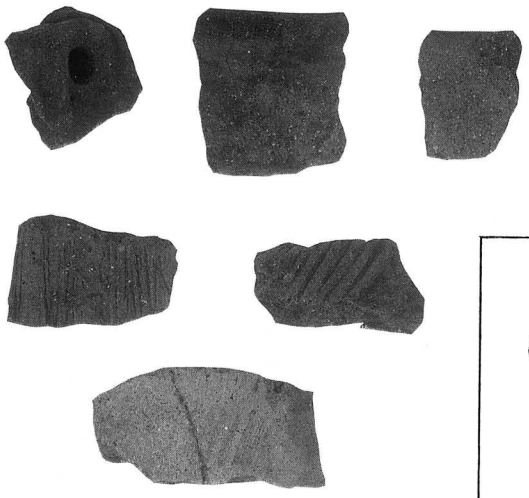
図版34　第 3 号住居址出土土器



図版35　第 6 号住居址出土土器

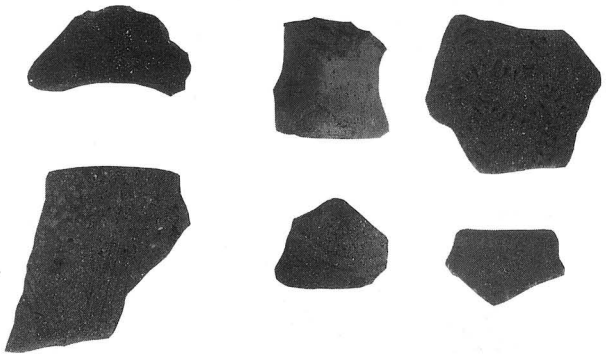
図版36　第 7 号住居址
出土土器

図版37　第 8 号住居址
出土土器

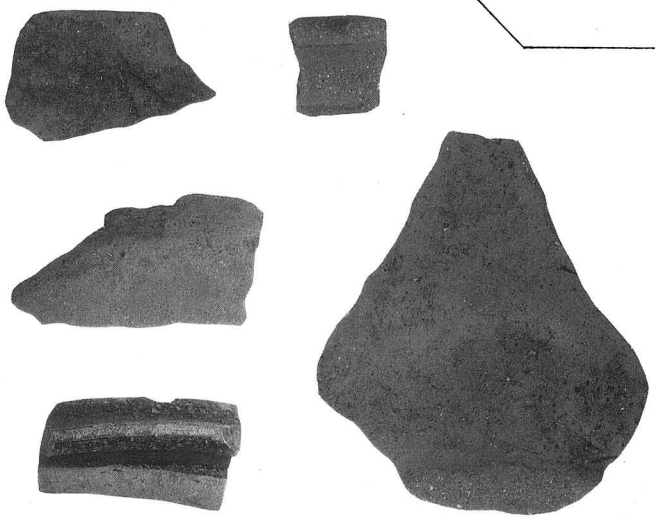


図版38　第９号住居址出土土器

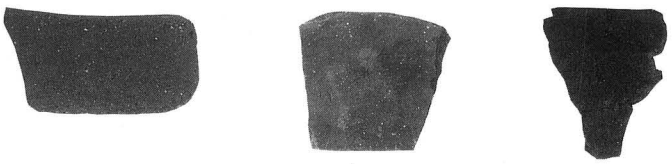
図版39　第３号土坑出土土器

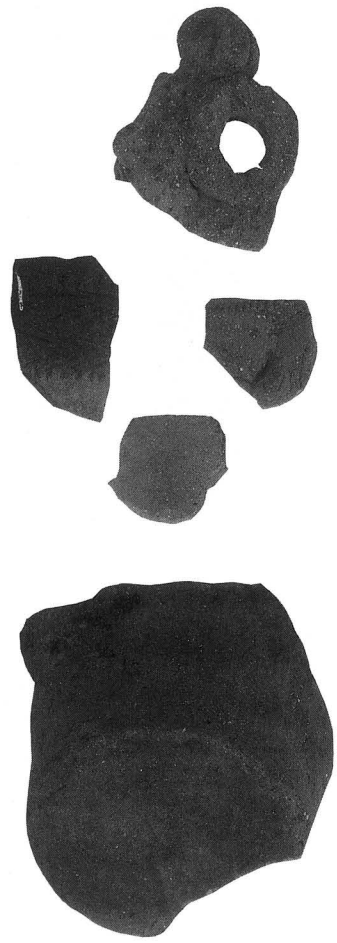


図版40　第１号溝状遺構出土土器

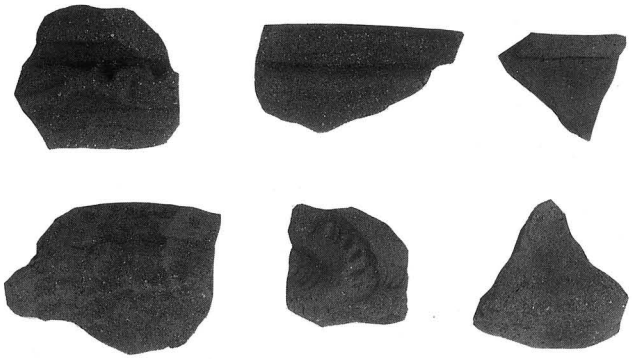


図版41　第６号溝状遺構出土土器





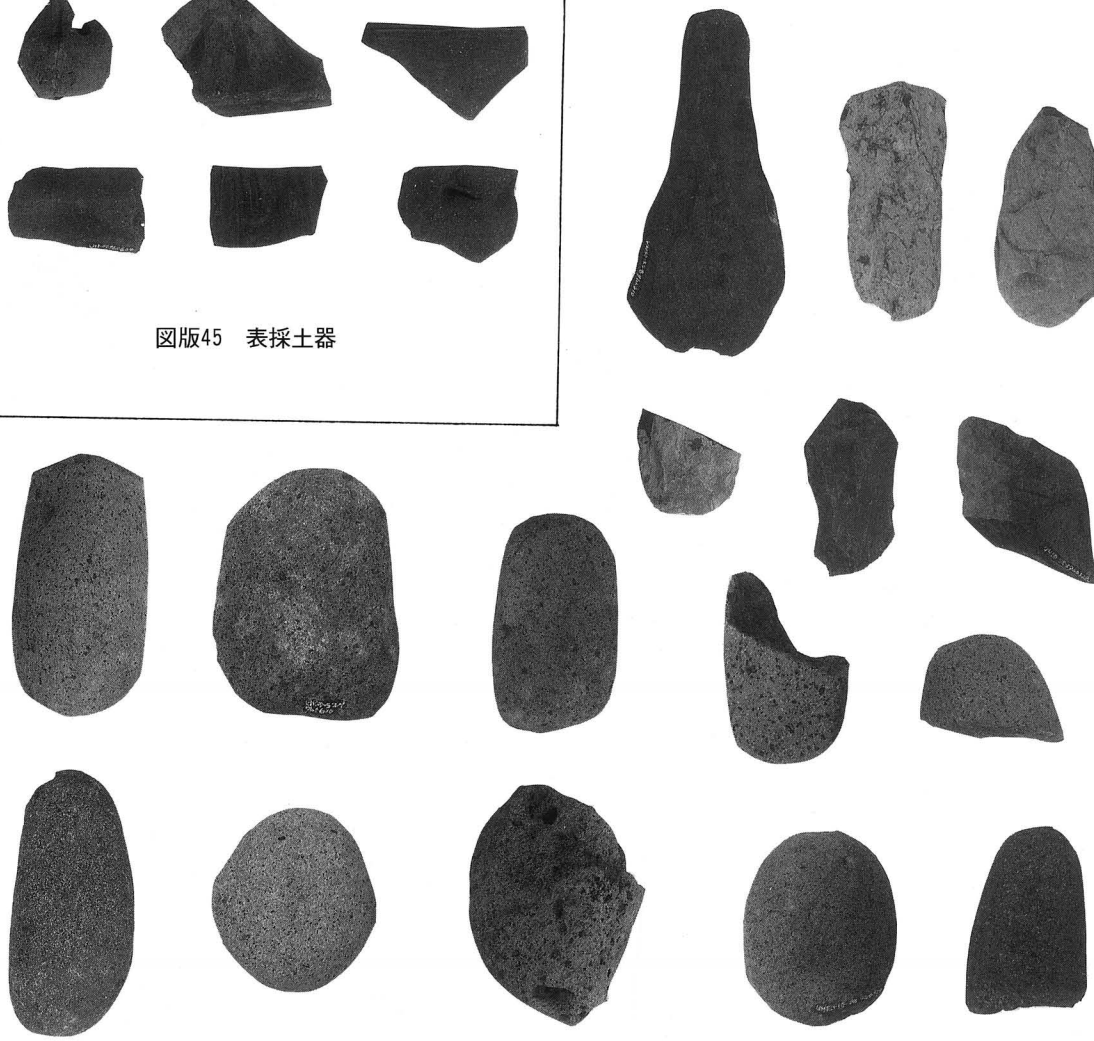
図版42　不明遺構出土遺物一括



図版43　グリッド出土土器

図版44　トレンチ内出土土器

図版45　表採土器



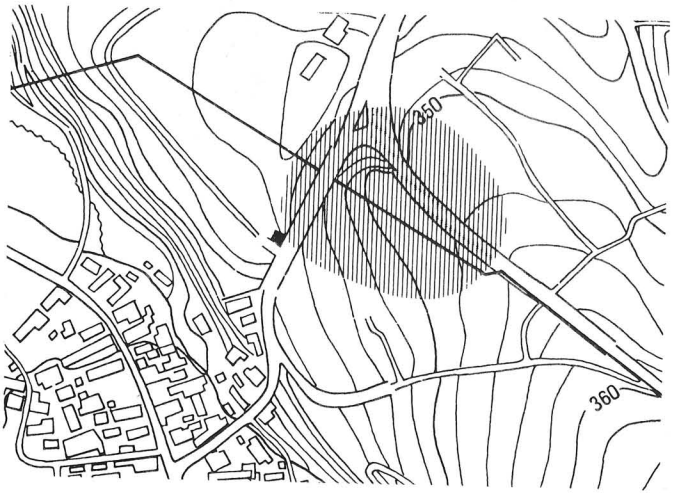
図版46　出土石器(No.1)

図版47　出土石器(No.2)

第Ⅳ章　まとめ

前述のとおり上野原遺跡は過去２回の調査が行われており、1971年の調査では住居址22軒の他、多数の土坑、配石遺構等が検出、また、1984年の調査では住居址16軒、土坑95基、単独埋甕５基、集石遺構１基、配石遺構１基、竪穴状遺構２基、溝状遺構４本が検出され、前者は『中道町史』後者は山梨県埋蔵文化財センター調査報告第19集で報告されている。

このようなことから今回の調査も実施以前から相当な遺物、遺構の出土見込みがなされていた。４ヶ月にわたる調査の結果、住居址９軒、土坑６基、溝状遺構７本が検出され、上野原大集落の偉大さを再認識したように思われる。



第42図　1984年調査時縄文中期集落の推定範囲

しかしながら北側半分からは縄文時代中期の遺物が若干量認められたものの、これらに伴っての遺構は検出されていない。このことは1984年の調査報告書の中で上野原遺跡における「縄文時代中期集落の推定範囲」が図示されており（第42図参照）、この図からも上野原遺跡の範囲は、今回の調査地が最北限であると考えてもよいであろう。そして、今回の調査地以南に「相当の人口を収容し、繁栄を誇っていた」「原始社会であるムラを形造っていたのではないか」（『中道町史』引用）と推測される。

当地一帯は現在中道町内でも屈指の優良な農地ではあるものの、近年今回のような開発事業が頻繁に行われ、人口も増加している地域である。今後も付近一帯でこのような開発に伴っての調査が行われていくことは間違いなく、上野原遺跡の全容は少しずつながら解明されていくことであろう。

今回の調査にあたり、文化財保護、活用に深い理解と協力をご提供戴いた有限会社久中商事代表の小林康展様をはじめ、降雪の日にも、また、農繁期の時季にもご協力をいただいた地元の調査協力者の方々、ならびにお忙しいところを調査現場までお越しいただき、ご指導下さった諸先輩方に厚くお礼申し上げ、挨拶傍まとめとします。

引用・参考文献

中道町史編纂委員会　『中道町史―上巻―』　1975　中道町
山梨県教育委員会　他　『一の沢西遺跡他』　1986　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第16集
山梨県教育委員会　他　『上野原遺跡他』　1987　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第19集
山梨県教育委員会　『釈迦堂Ⅱ』　1987　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第21集
境川村教育委員会　『金山遺跡Ⅲ』　1995　境川村埋蔵文化財発掘調査報告書第12輯

報告書抄録

ふ り が な	うえのはらいせき
書　　名	上野原遺跡
副 書 名	
シ リ ー ズ 名	中道町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第3集
編 著 者 名	生涯学習係　文化財担当　林部　光
編 集 機 関	中道町教育委員会
所　在　地	〒400－15　山梨県東八代郡中道町下向山1524　TEL0552－66－4121
発 行 年 月 日	西暦　1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上野原遺跡（うえのはらいせき）	山梨県東八代郡中道町（やまなしけんひがしやつしろぐんなかみちちょう） 右左口字立石（うばぐちあざたていし）823－1 （外9筆）	193267	1	19960222 ～ 19960613	4,006	開発事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上野原遺跡	集落跡	縄文時代中期	住居址　9軒 土　坑　6基 溝状遺構　7本	縄文時代中期の土器 底部穿孔土器 深鉢・浅鉢　等 縄文時代の石器 打製石斧・磨石・ 石鏃・石匙・ 石皿・凹石　等	

中道町埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

上野原遺跡

印刷日　1997年3月28日
発行日　1997年3月31日
発行所　中道町教育委員会
〒400-15 山梨県東八代郡中道町下向山1524
TEL 0552－66－4121
印刷所　(株)エンドレス
〒405 山梨県山梨市上石森123
TEL 0553－22－4574